

# 千歳市人口ビジョン（改訂）

令和2年3月市長決裁  
令和7年2月 改訂

はじめに .....	1
第1章 人口の現状.....	2
1 人口の推移 .....	2
(1) 近年の人口推移.....	2
(2) 男女比率及び外国人人口の推移.....	3
(3) 千歳市の現在の人口構成について .....	4
(4) 人口動態の内訳.....	5
2 自然増減（出生） .....	6
(1) 年齢階級別の女性人口・出生数.....	6
(2) 出生率の推移 .....	7
3 自然増減（死亡） .....	8
(1) 死亡の状況.....	8
4 社会増減（転入と転出） .....	9
(1) 転入者数と転出者数.....	9
(2) 地域ブロック別の転入・転出の状況.....	10
(3) 転入元、転出先.....	11
(4) 年齢階級別の転入・転出状況～男性.....	12
(5) 年齢階級別の転入・転出状況～女性.....	13
5 産業・雇用 .....	14
(1) 産業別（大分類）の就業者数 .....	14
(2) 千歳市外から市内に従業している就業者数.....	15
(3) 近隣からの通勤・通学の状況 .....	16
(4) 昼間人口・夜間人口の推移.....	17
6 交流人口.....	18
(1) 観光入込客数 .....	18
第2章 将来人口の推計 .....	19
1 将来推計人口.....	19
(1) 人口推計の考え方 .....	19
(2) 年齢3区分別人口の変化.....	20
(3) <b>Rapidus</b> 立地に伴う人口増加効果予測.....	20
第3章 目指す方向性.....	22
1 目指す方向性.....	22
2 目指す方向性に向けた取組.....	22
(1) 社会動態.....	23
(2) 自然動態.....	23
(3) 交流人口・関係人口.....	23
【参考資料】 .....	24
1 「第1章 人口の現状」に関連する図・表 .....	24
2 結婚と出産に関する意識（全国調査） .....	28
3 将来推計人口（地区別人口推計） .....	32

## はじめに

本市では、令和2（2020）年3月に「千歳市人口ビジョン（改訂版）」を策定し、令和3（2021）年度を始期とする第7期総合計画において、「令和12（2030）年の目標人口10万人」を掲げ、人口増加が続く活気あふれるまちづくりに向け、各種施策に取り組んできました。

令和5（2023）年2月にRapidus株式会社（以下Rapidus）が千歳市での次世代半導体製造拠点の立地を決定したことを受け、本市では、Rapidus事業が国家戦略に基づく巨大プロジェクトであり、今後のまちづくりに大きな影響を及ぼす可能性があること、そして、Rapidusが立地したことによるまちの変化を捉え、さらなる発展を目指すことが重要であるとの考えから、この影響や変化等を調査し、市内外に示すため「千歳市将来ビジョン」を策定しました。

この度の人口ビジョンはRapidus立地の影響を踏まえた人口推計を示すため「千歳市将来ビジョン」の策定とともに改訂するものです。

## 対象期間

人口ビジョンの対象期間は、令和2（2020）年3月に策定の「千歳市人口ビジョン（改訂版）」と同様に令和42（2060）年までとします。

---

※千歳市将来ビジョン：半導体産業を核とした産業集積の展開やそれによる様々なまちの変化を示すとともに、未来の発展に向け目指すべきまちの姿を描いたもの。

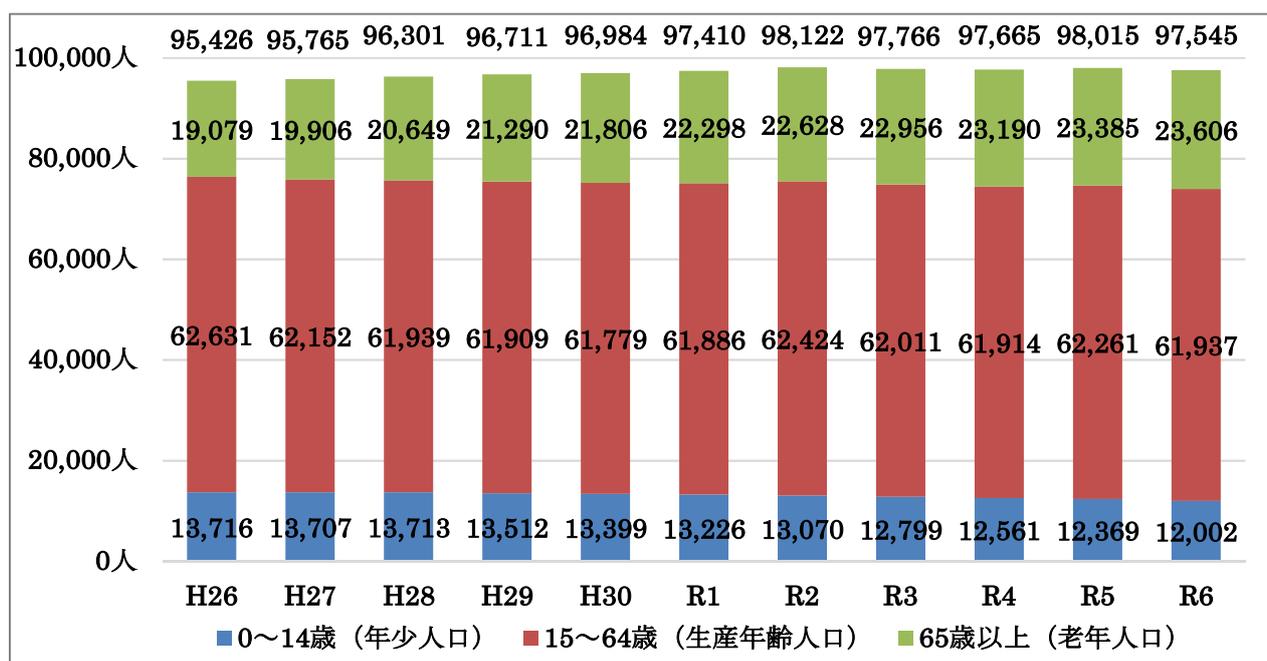
# 第1章 人口の現状

## 1 人口の推移

### (1) 近年の人口推移

- 本市の人口総数は令和2（2020）年まで増加を続けていましたが、その後は、横ばいの推移となっています。
- 人口の内訳を年齢3区分別に見ると、0～14歳（年少人口）は緩やかに減少を続けています。
- 15～64歳（生産年齢人口）は、平成26（2014）年から平成30（2018）年にかけて減少していましたが、その後は令和5（2023）年まで横ばいの推移となっています。
- 65歳以上（老年人口）は年々増加しており、人口総数に占める割合は平成26（2014）年には20%の割合でしたが、令和6（2024）年には24.2%と増加しています。

（図1）千歳市の年齢3区分別人口の推移



出典：住民基本台帳[10月1日時点]（千歳市）

（表1）千歳市の年齢3区分別人口割合の推移

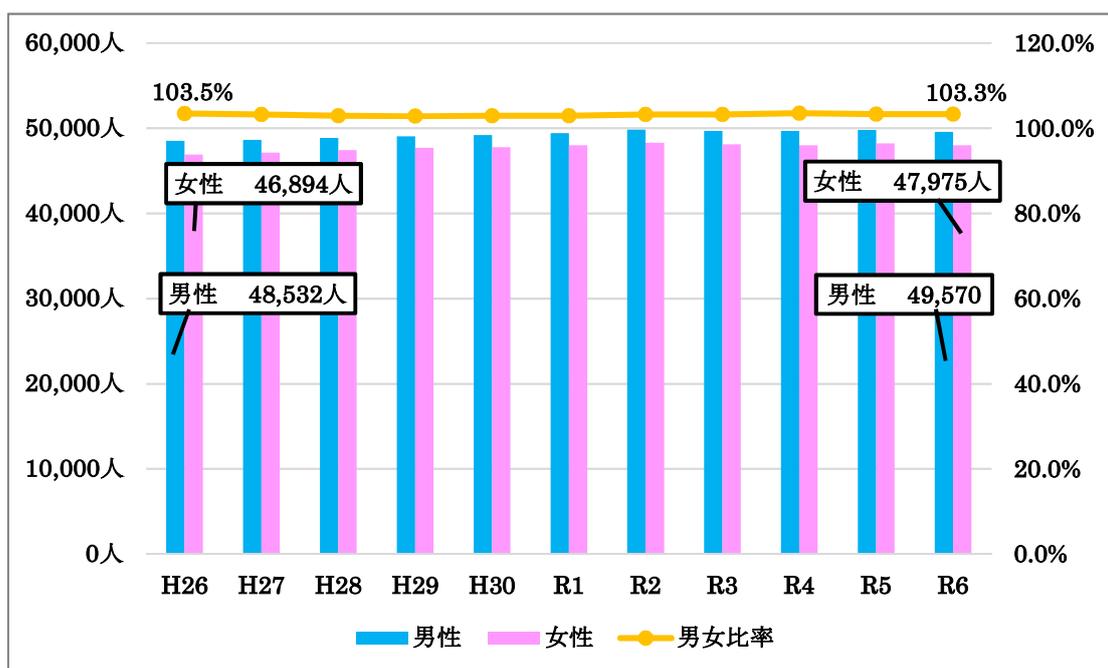
	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
0～14歳(年少人口)	14.4%	14.3%	14.2%	14.0%	13.8%	13.6%	13.3%	13.1%	12.9%	12.6%	12.3%
15～64歳(生産年齢人口)	65.6%	64.9%	64.3%	64.0%	63.7%	63.5%	63.6%	63.4%	63.4%	63.5%	63.5%
65歳以上(老年人口)	20.0%	20.8%	21.4%	22.0%	22.5%	22.9%	23.1%	23.5%	23.7%	23.9%	24.2%

出典：住民基本台帳[10月1日時点]（千歳市）

## (2) 男女比率及び外国人人口の推移

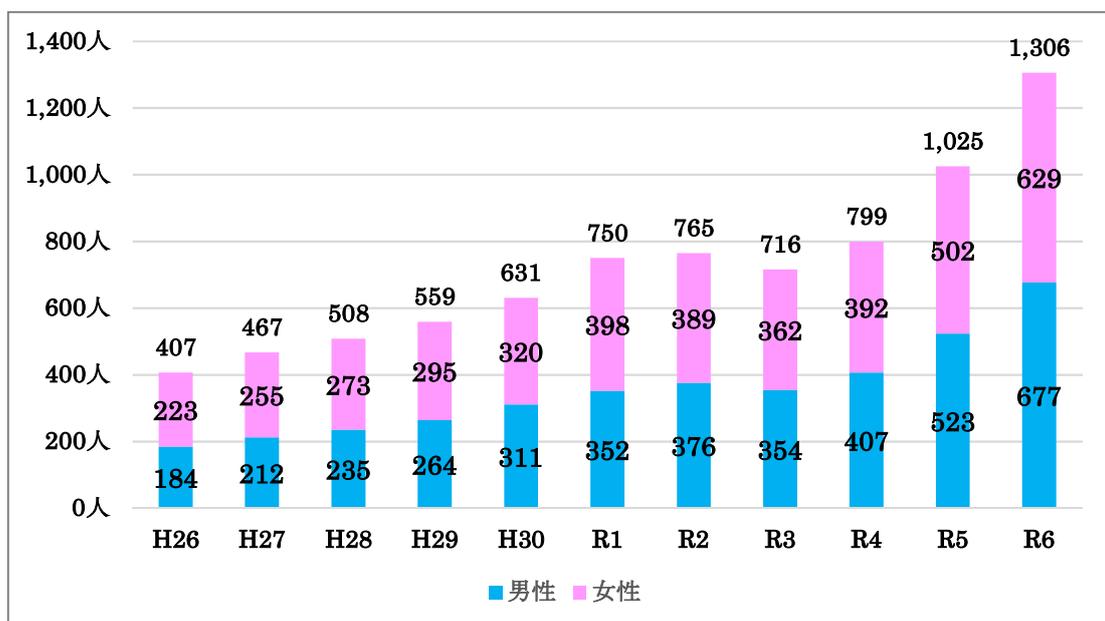
- 本市の人口の男女比率（女性人口を100%とした場合の男性人口）は、男性人口が多い状況が続いており、令和6（2024）年の男女比率は103.3%となっています。
- 外国人人口は増加傾向にあり、令和5（2023）年に初めて1,000人を超え、令和6（2024）年には1,306人となっています。
- 外国人の男女比は、令和3（2021）年までは女性が多い状況でしたが、近年は男性が多くなっています。

(図2) 男性・女性人口と、その男女比率



出典：住民基本台帳[10月1日時点]（千歳市）

(図3) 千歳市の外国人人口

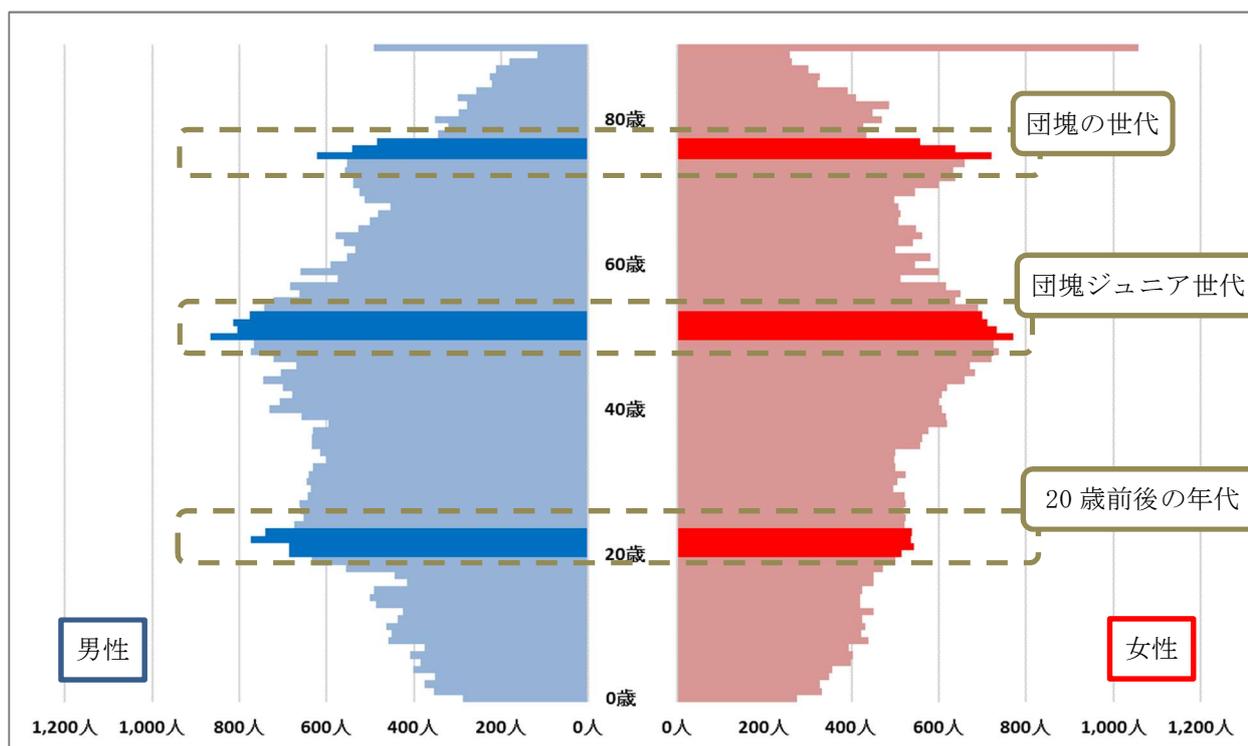


出典：住民基本台帳[10月1日時点]（千歳市）

### (3) 千歳市の現在の人口構成について

- 本市の令和6（2024）年10月1日時点の人口ピラミッドは、男女とも20歳前後、昭和46（1971）年から昭和49（1974）年生まれの団塊ジュニア世代、昭和22（1947）年から昭和24（1949）年生まれの団塊の世代の3つのピークがあります。
- 18歳以下の年齢層の人口は男女ともに他の年齢層と比べ少なくなっていますが、進学や就職等により、20歳前後の年代が多くなっています。
- 団塊の世代は後期高齢者（75歳以上）に到達したことから、後期高齢者人口は増加しています。

(図4) 千歳市の人口ピラミッド

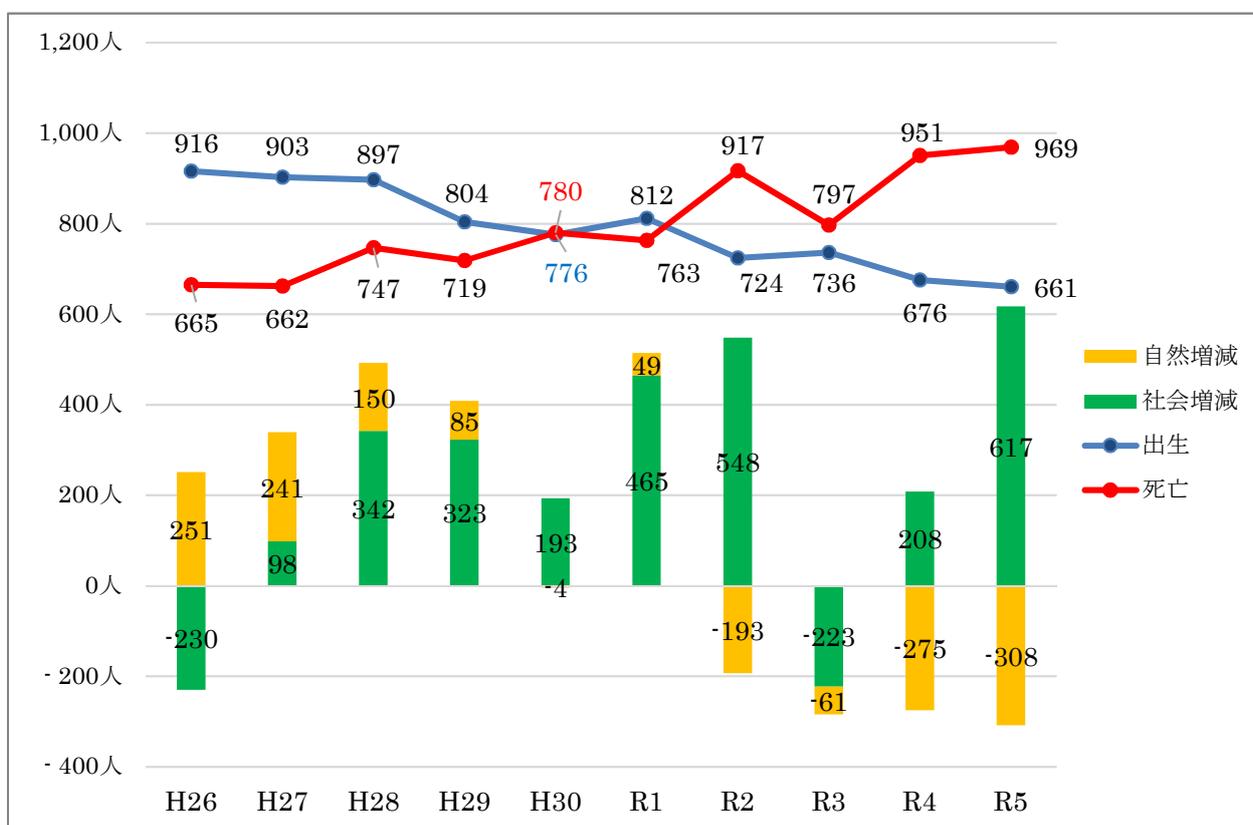


出典：住民基本台帳[令和6年10月1日時点]（千歳市）

#### (4) 人口動態の内訳

- 本市の自然増減は、平成 30（2018）年に初めて死亡数が出生数を上回り、令和 2（2020）年以降はその状況が続いています。
- 社会増減では、平成 27（2015）年以降転入超過が続いており、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた、令和 3（2021）年においては転出超過となりましたが、令和 4（2022）年からは再び転入超過となりました。
- 近年は自然減分を、社会増で補う状況が続いています。

(図 5) 人口動態・出生数・死亡数の推移



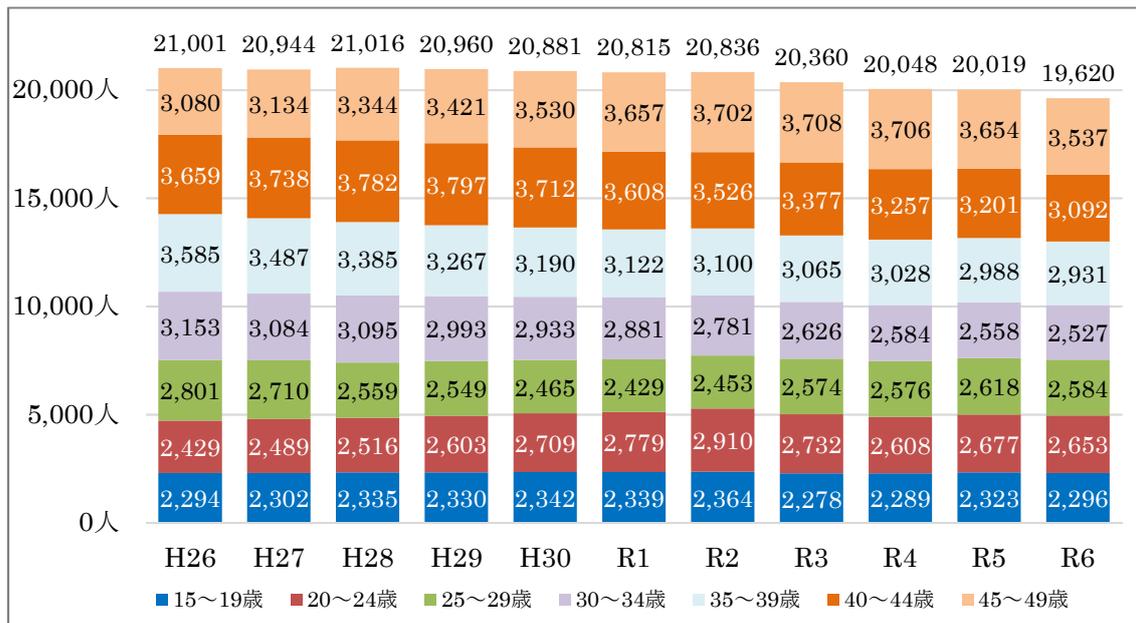
出典：住民基本台帳[1月1日時点]（千歳市）

## 2 自然増減（出生）

### （1）年齢階級別の女性人口・出生数

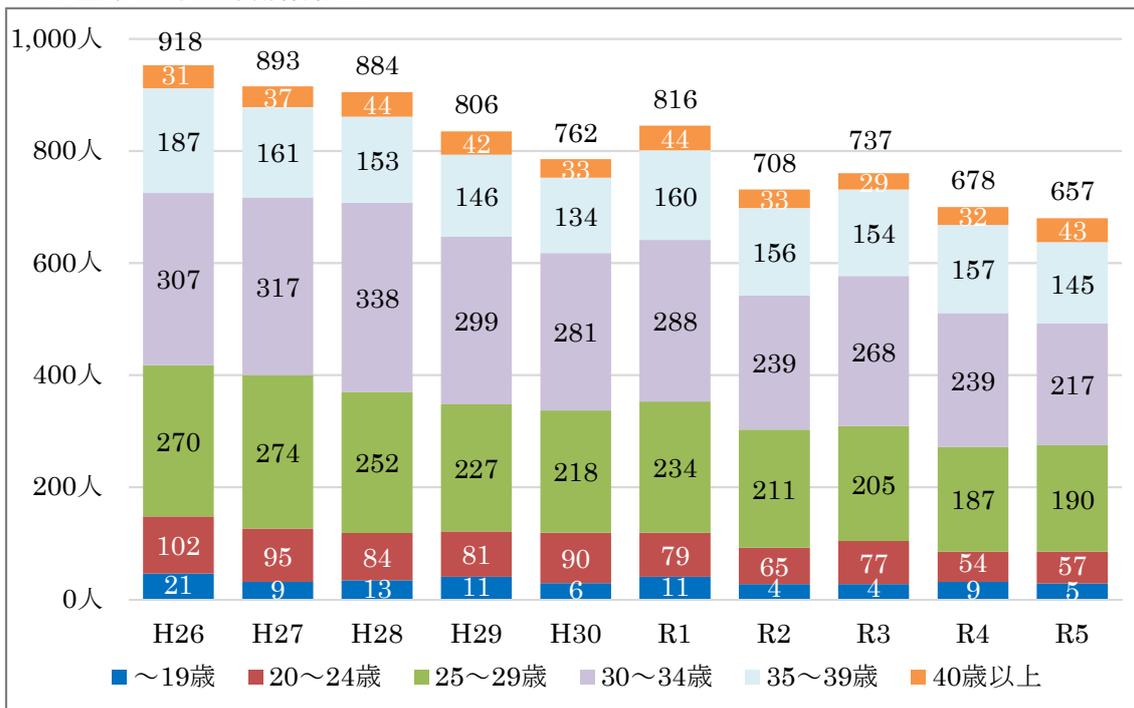
- 出生数に大きく関わる「15歳～49歳」の女性人口は平成26（2014）年から10年間で約1,400人近く減少しています。
- 本市の出生数を年齢別に見ると、どの年代でも出生数は減少しています。特に20代の出生数は、平成26（2014）年から約34%減少しています。

（図6）15～49歳の女性人口



出典：住民基本台帳[10月1日時点]（千歳市）

（図7）出生数（母の年齢階級別）

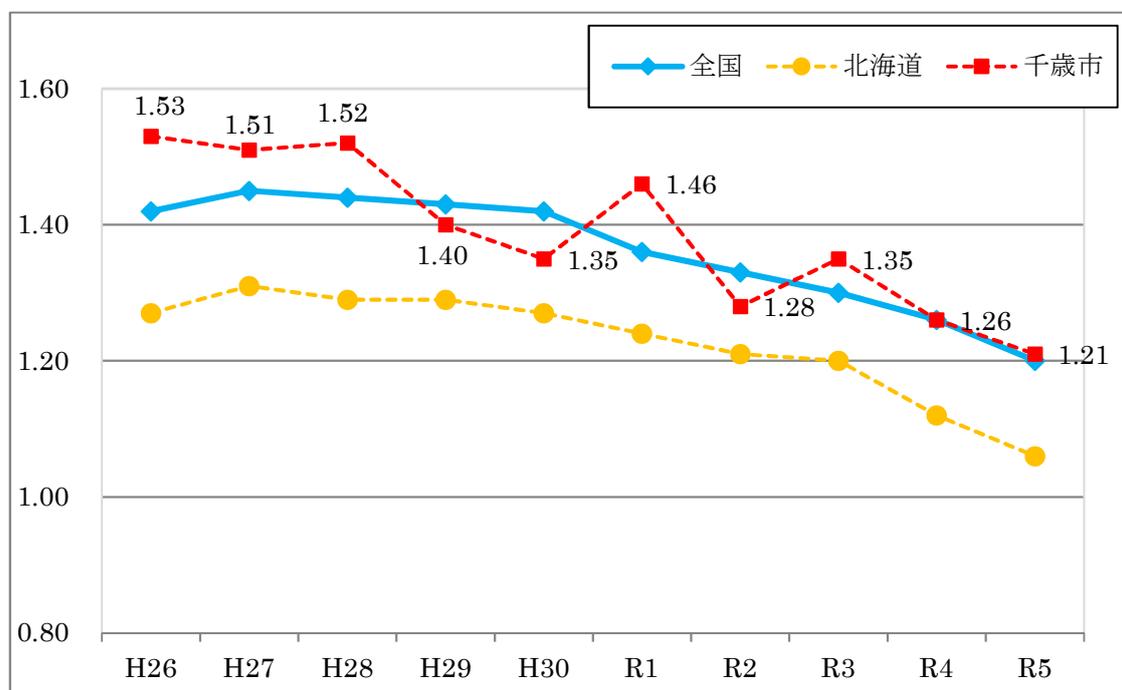


出典：人口動態統計（厚生労働省）

## (2) 出生率の推移

- 15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計した合計特殊出生率は、1人の女性が一生の間に生む子どもの人数とされています。
- 本市の令和5（2023）年の合計特殊出生率は1.21となりました。平成28（2016）年までは全国や北海道と比較して高い値で推移してきましたが、近年は全国と同程度の水準にあります。

(図8) 合計特殊出生率の推移



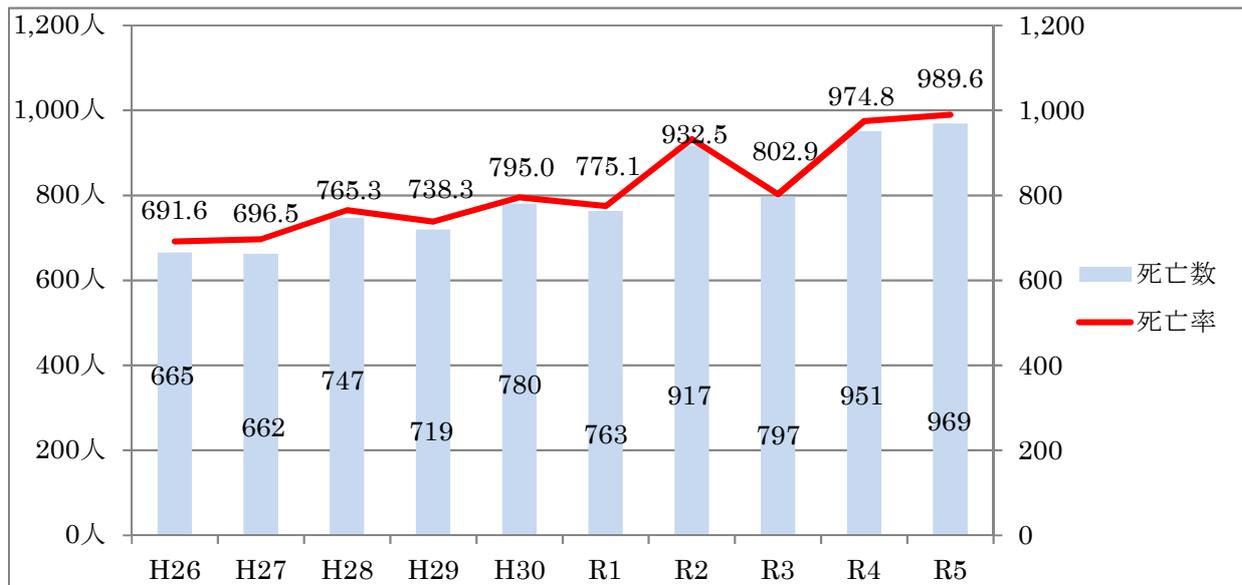
出典：人口動態統計 [合計特殊出生率]（厚生労働省）

### 3 自然増減（死亡）

#### (1) 死亡の状況

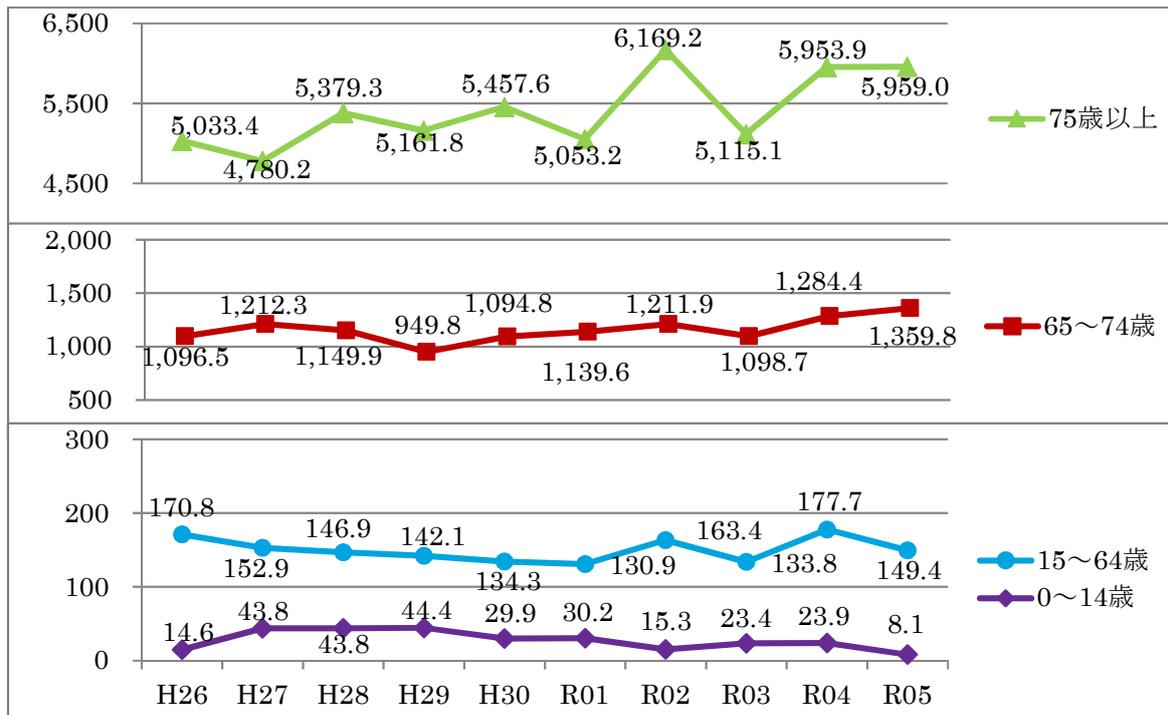
- 本市の全人口に対する死亡率、死亡数は増加傾向にあり、近年は900人を超える死亡数となっています。
- 年齢4区分別の人口10万人あたりの死亡率で見ると、「75歳以上」が令和元年以降に上昇傾向にあります。

(図9) 死亡数、死亡率（人口10万人あたりの死亡数）の推移



出典：人口動態統計（厚生労働省）、住民基本台帳（千歳市）

(図10) 年齢4区分別の死亡率（人口10万人あたりの死亡数）の推移



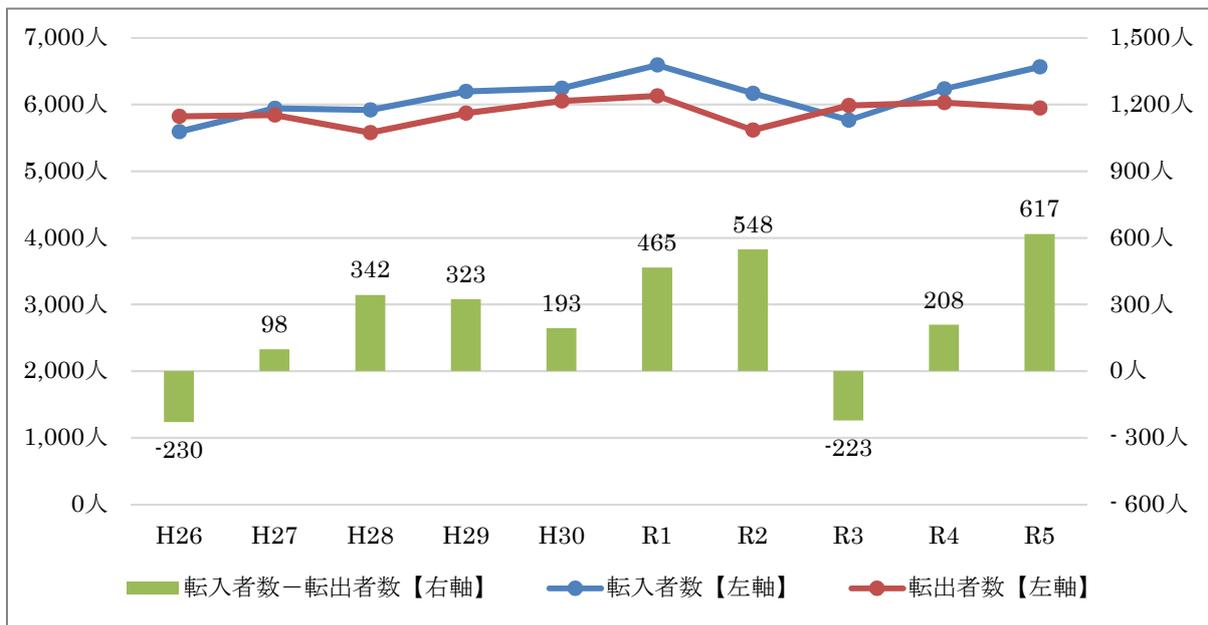
出典：人口動態統計（厚生労働省）、住民基本台帳[10月1日時点]（千歳市）

#### 4 社会増減（転入と転出）

##### （1）転入者数と転出者数

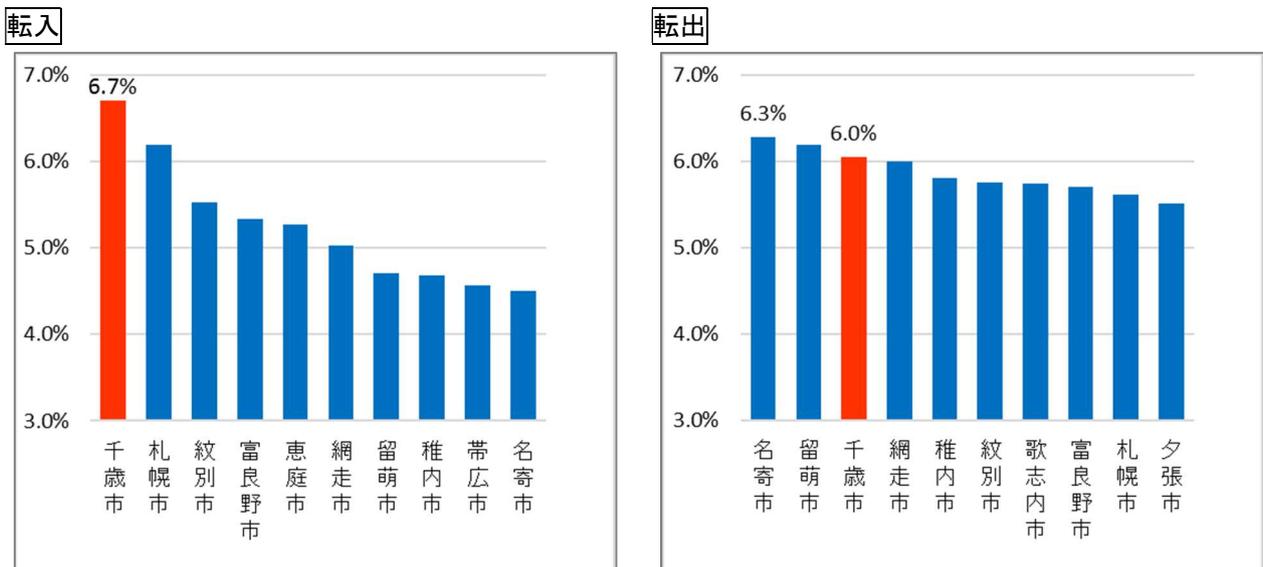
- 本市では、毎年、5,000～6,000人の転入・転出があります。
- 純移動数（転入数－転出数）は、令和3（2021）年では新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、一時的に転入者数が減少し、マイナスとなりましたが、その後は転入超過に転じています。
- 人口に対する転入・転出者数の割合を見ると、北海道内の市部では、転入は1番高い割合で、転出については3番目に高い割合となっており、道内でも人口に対する社会増減の割合が高いことが分かります。

（図11）転入数と転出数、純移動数の推移



出典：住民基本台帳（千歳市）

（図12）人口に対する転入・転出者数の割合（北海道内上位10市）



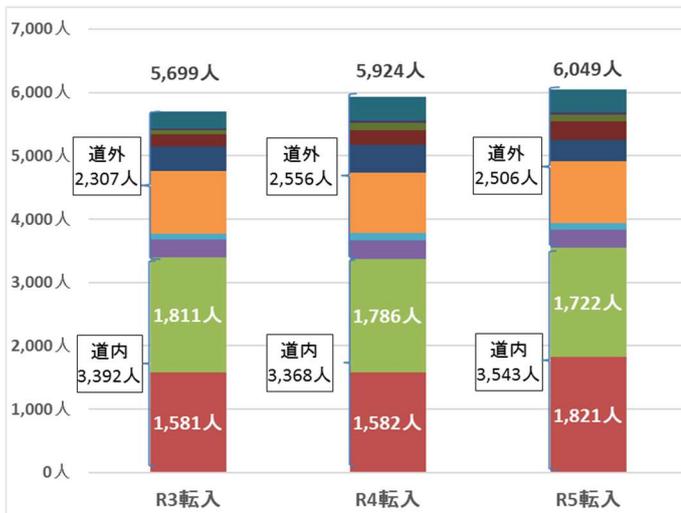
出典：住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数〔令和6年〕（総務省）

## (2) 地域ブロック別の転入・転出の状況

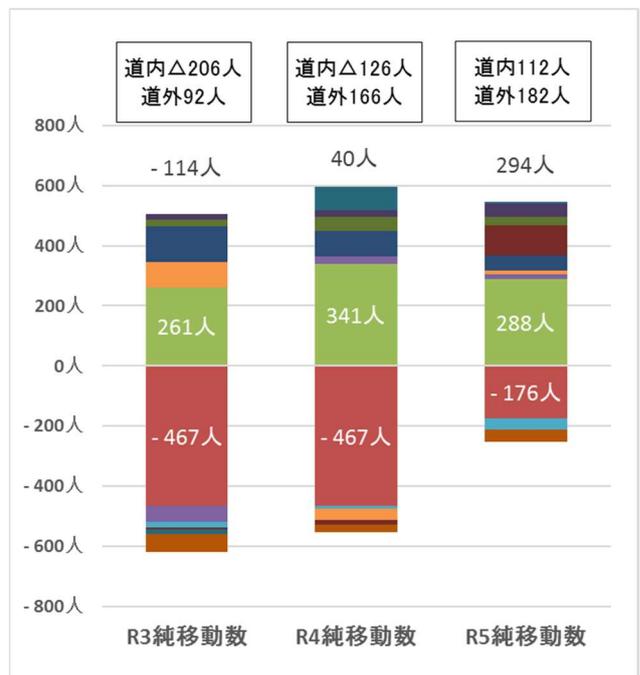
- 転入者数を地域ブロック別に見ると、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和3（2021）年、令和4（2022）年は「北海道内（札幌圏以外）」が最多でしたが、令和5（2023）年は「札幌圏」が上回りました。北海道外では、令和4（2022）年以降は合計で2,500人を超える転入者数となっており、その内訳では東京圏が多くなっています。
- 転出者数を地域ブロック別に見ると、「札幌圏」が多い状況です。「北海道内（札幌圏以外）」への転出は、令和4（2022）年以降、約1,400人で推移しています。北海道外では合計で約2,300人を超えており、その内訳では転入と同じく東京圏が多くなっています。
- 純移動数については、令和3（2021）年、令和4（2022）年は北海道内の他自治体へ転出超過となっていました。令和5（2023）年には転入超過に転じています。

(図13) 地域ブロック別の転入者数と転出者数、純移動数（転入者数－転出者数）

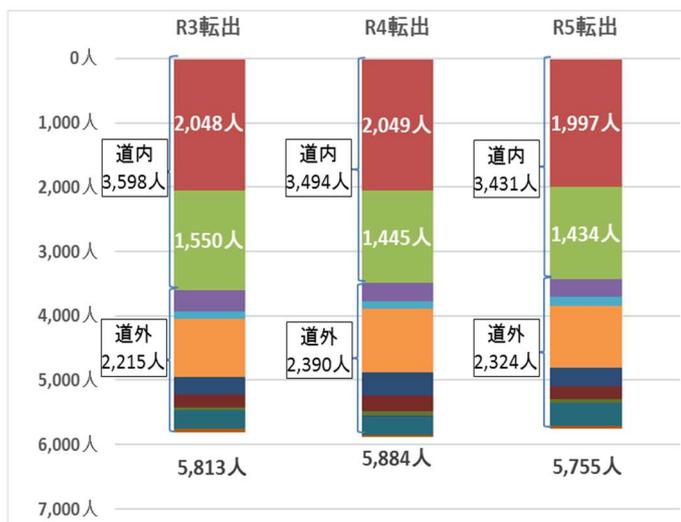
転入者数



純移動数



転出者数

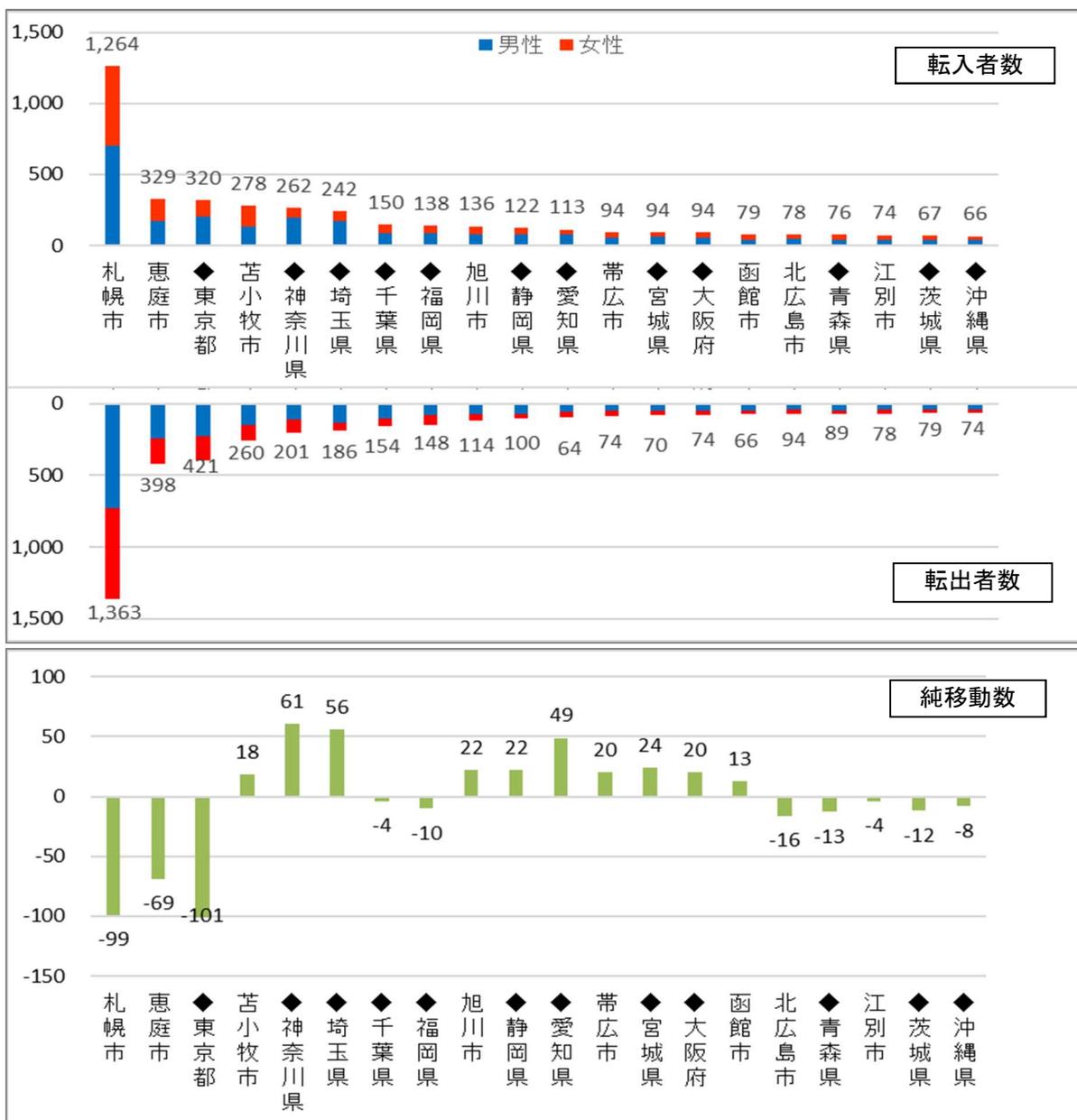


札幌圏：札幌市、小樽市、江別市、恵庭市、北広島市、石狩市  
 東京圏：東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県

### (3) 転入元、転出先

- 令和5（2023）年の本市への転入者数を転入元の自治体別（北海道内は市町村、北海道外は都府県）に見ると、北海道内では札幌市（1,264人）が突出して多く、次いで、恵庭市（329人）、苫小牧市（278人）の順に多くなっています。北海道外では、東京都（320人）、神奈川県（262人）、埼玉県（242人）、千葉県（150人）の東京圏（1都3県）からの転入者数が多い状況です。
- 本市からの転出者数を転出先の自治体別に見ると、転入と同様に、北海道内では札幌市（1,363人）が突出して多く、次いで、恵庭市（398人）、苫小牧市（260人）の順に多くなっています。北海道外では、転入と同じく、東京圏への転出者数が多い状況です。

(図14) 転入・転出者数、純移動数（転入・転出者数のそれぞれ上位20自治体を掲載）

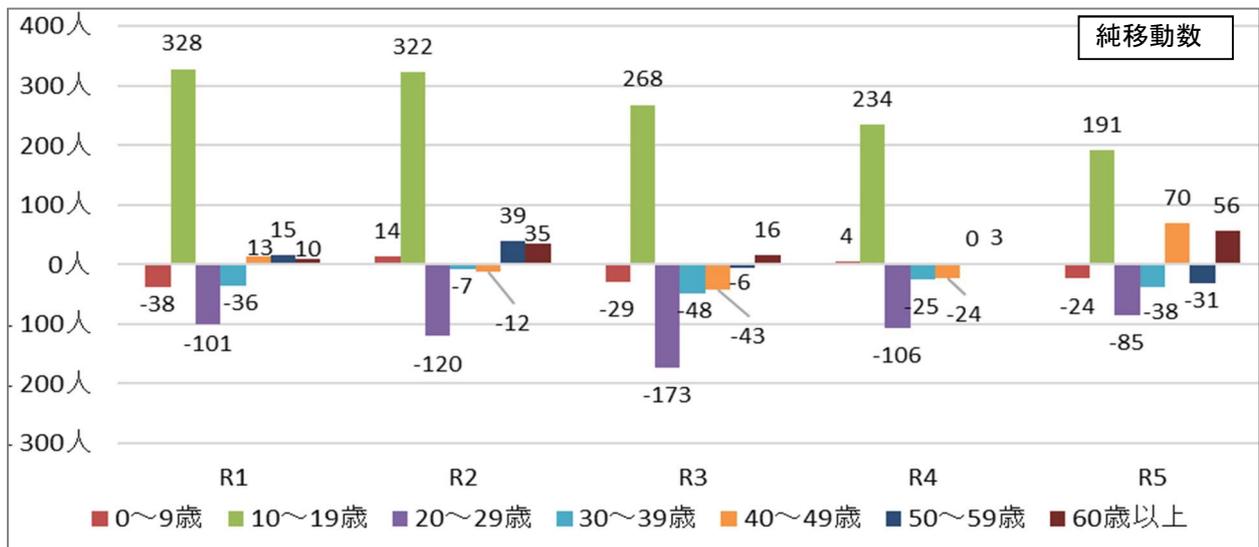


出典：住民基本台帳人口移動報告〔令和5年〕（総務省）  
 ※北海道内は市町別、北海道外は都府県別（◆）に記載

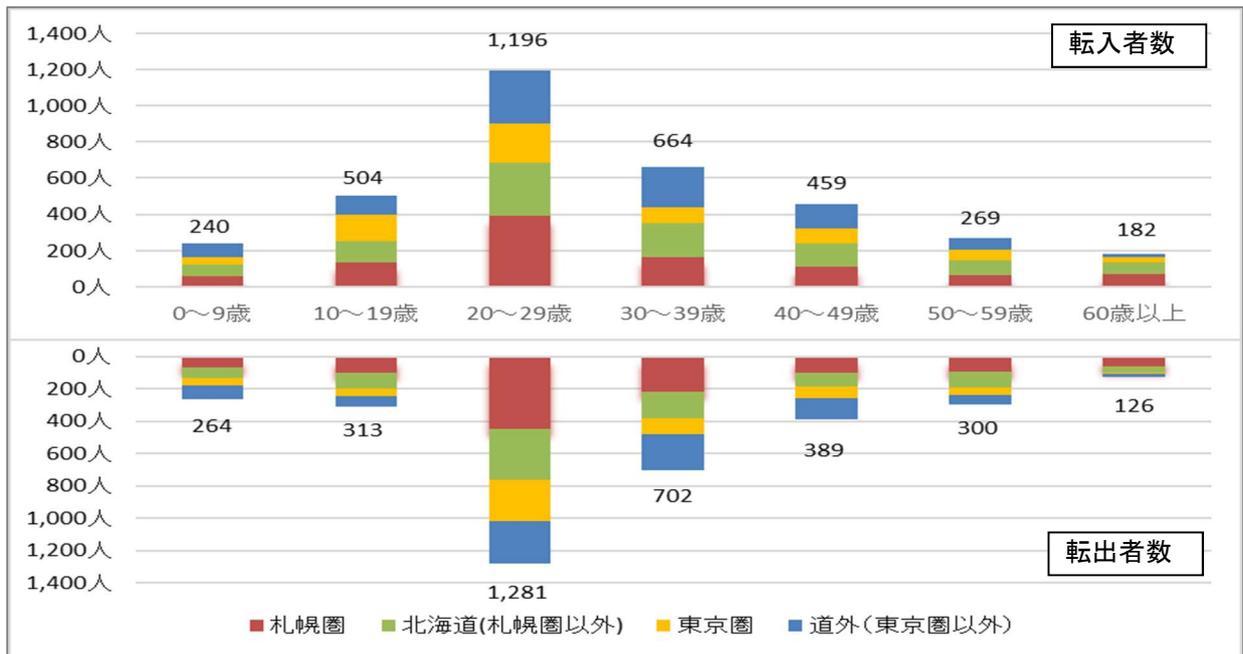
#### (4) 年齢階級別の転入・転出状況～男性

- 男性における純移動数（転入数－転出数）の推移では、「10～19歳」が最も転入超過数が多い状況ですが、その数も近年は減少傾向にあります。
- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和3（2021）年には、「20～29歳」の転出超過数が最も多くなりましたが、近年はその数も抑制傾向にあります。
- 令和5（2023）年には「10～19歳」、「40歳～49歳」、「60歳以上」の年代で転入超過に転じました。
- 令和5（2023）年の転入者数と転出者数の内訳をみると、いずれの年代においても北海道内での移動が多くなっています。

(図15) 年齢階級別の純移動数の推移～男性



(図16) 年齢階級別の転入者数と転出者数～男性（令和5年）

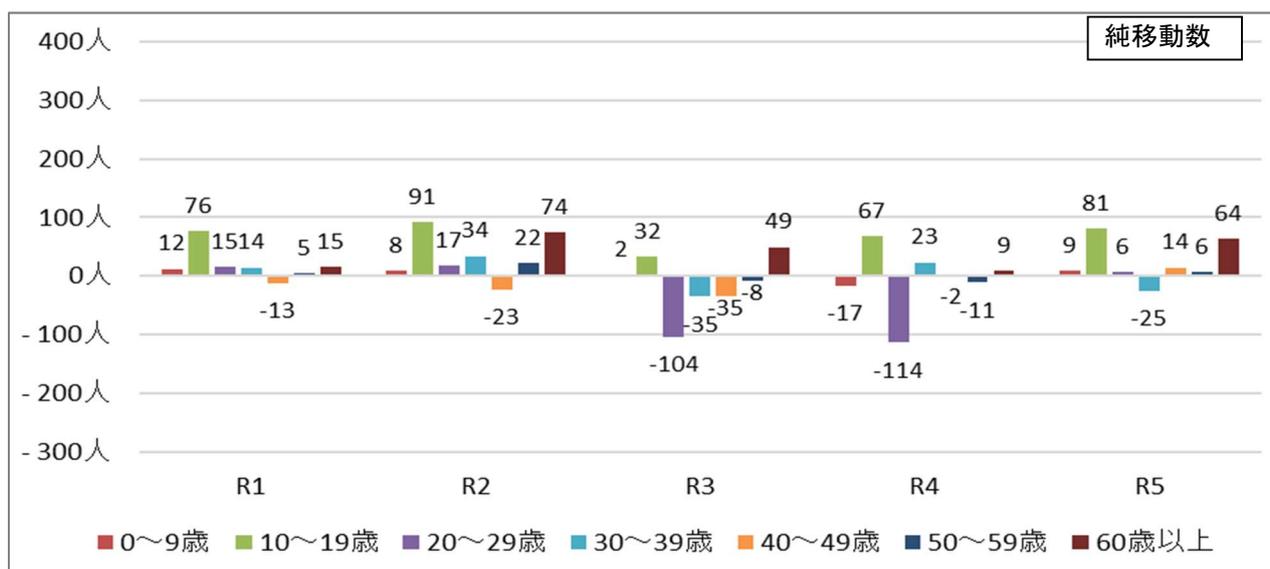


出典：住民基本台帳人口移動報告〔令和5年〕（総務省）※年齢階級別「不詳／その他」は除く。

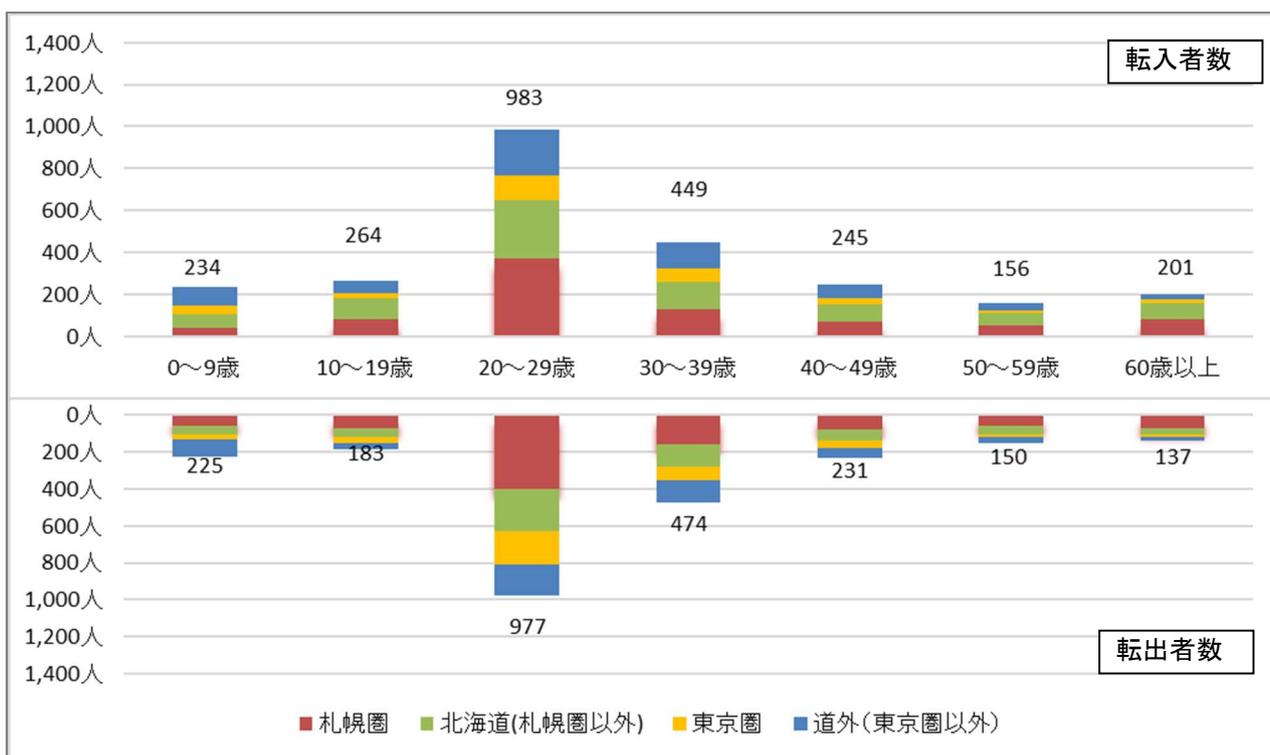
### (5) 年齢階級別の転入・転出状況～女性

- 女性における純移動数（転入数－転出数）の推移は、男性と同じく「10～19歳」の転入超過数が最も多くなっています。
- 新型コロナウイルス感染症の影響を受けた令和3（2021）年と令和4（2022）年には、「20～29歳」の転出超過数が多くなりましたが、令和5（2023）年には転入超過へ転じています。
- 令和5（2023）年の転入者数と転出者数の内訳をみると、いずれの年代においても男性と同じく、北海道内での移動が多くなっています。

(図 17) 年齢階級別の純移動数の推移～女性



(図 18) 年齢階級別の転入者数と転出者数～女性（令和5年）



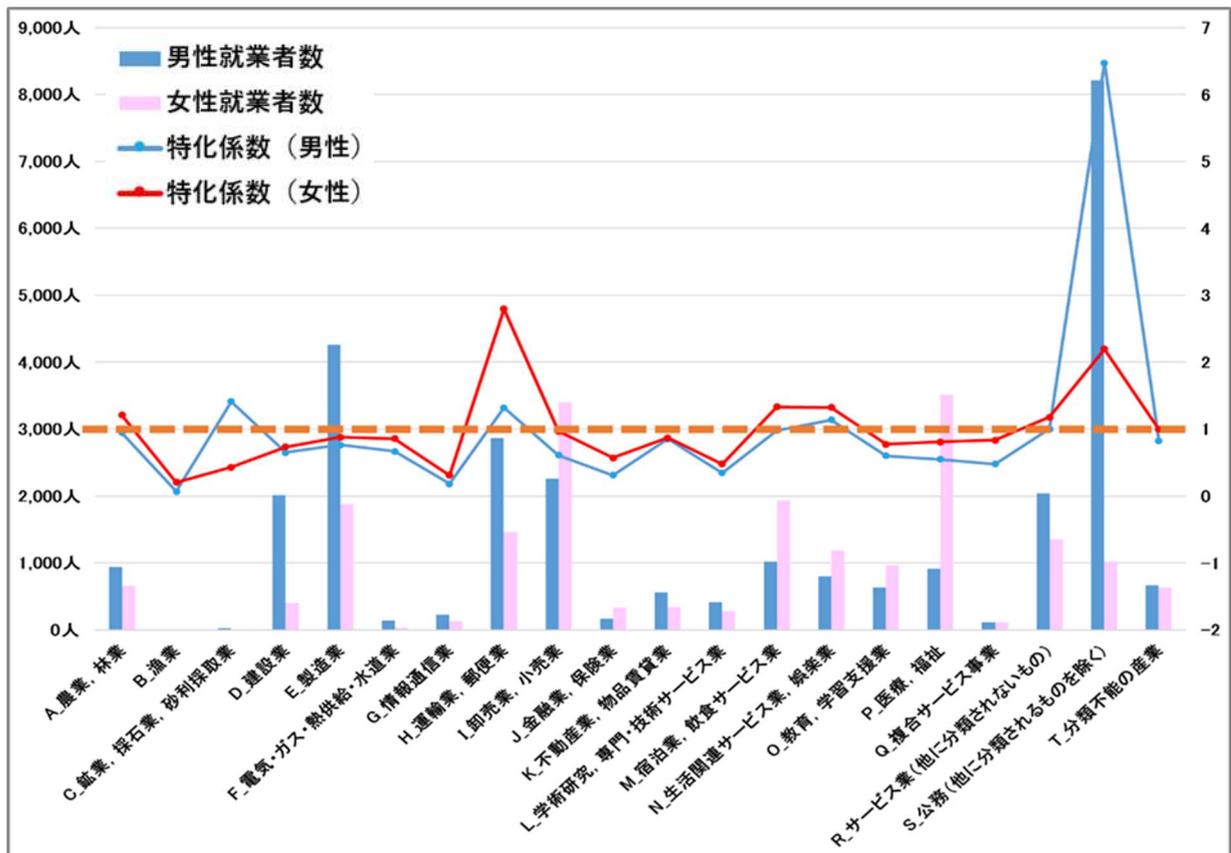
出典：住民基本台帳人口移動報告〔令和5年〕（総務省）※年齢階級別「不詳／その他」は除く。

## 5 産業・雇用

### (1) 産業別（大分類）の就業者数

- 本市には 280 社を超える企業が立地するほか、陸上自衛隊東千歳駐屯地、陸上自衛隊北千歳駐屯地、航空自衛隊千歳基地が所在していることや、生産性が高い農業地域を有しています。
- 男女別に産業別就業者数を見ると、男性は、公務、製造業、運輸業・郵便業の順に就業者数が多く、女性は、医療・福祉、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業の順に就業者数が多くなっています。
- 男女別に産業別特化係数\*を見ると、男性は、公務、鉱業・採石業・砂利採取業、運輸業・郵便業の順に高く、女性は、運輸業・郵便業、公務、宿泊業・飲食サービス業の順に高くなっています。
- 公務の特化係数が高いことは、本市の特色である自衛隊によるものであると考えられます。本市の自衛隊の隊員数は人口の約 10%に相当し、家族等を合わせると約 25%を占めています。
- 運輸業・郵便業の特化係数が高いことは、新千歳空港の就業者によるものであると考えられます。

(図 19) 男女別 産業別（大分類）就業者数と特化係数



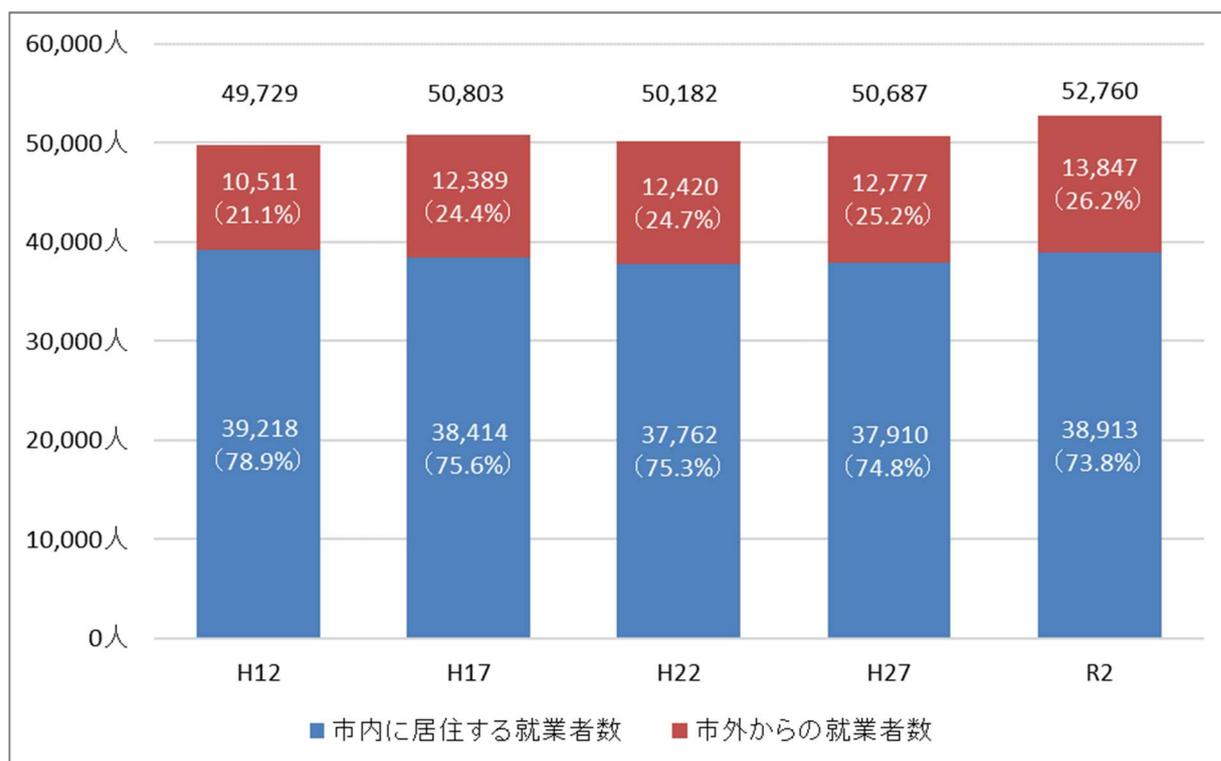
出典：国勢調査結果〔令和2年〕（総務省）

\*特化係数：域内における当該産業の就業者比率を、全国の当該産業の就業者比率で除した数値。値が1より大きい場合は、当該産業が全国と比べ高い比率。

## (2) 千歳市外から市内に従業している就業者数

- 令和2（2020）年の国勢調査において、市内就業者数<sup>※</sup>は52,760人となっており、平成27（2015）年と比較すると、就業者数は約2,000人ほど増加しています。
- 市外から市内に従業している就業者数は13,847人と全体の約26%を占め、その割合は徐々に増加傾向にあります。

(図 20) 千歳市内就業者の居住地別居住人数



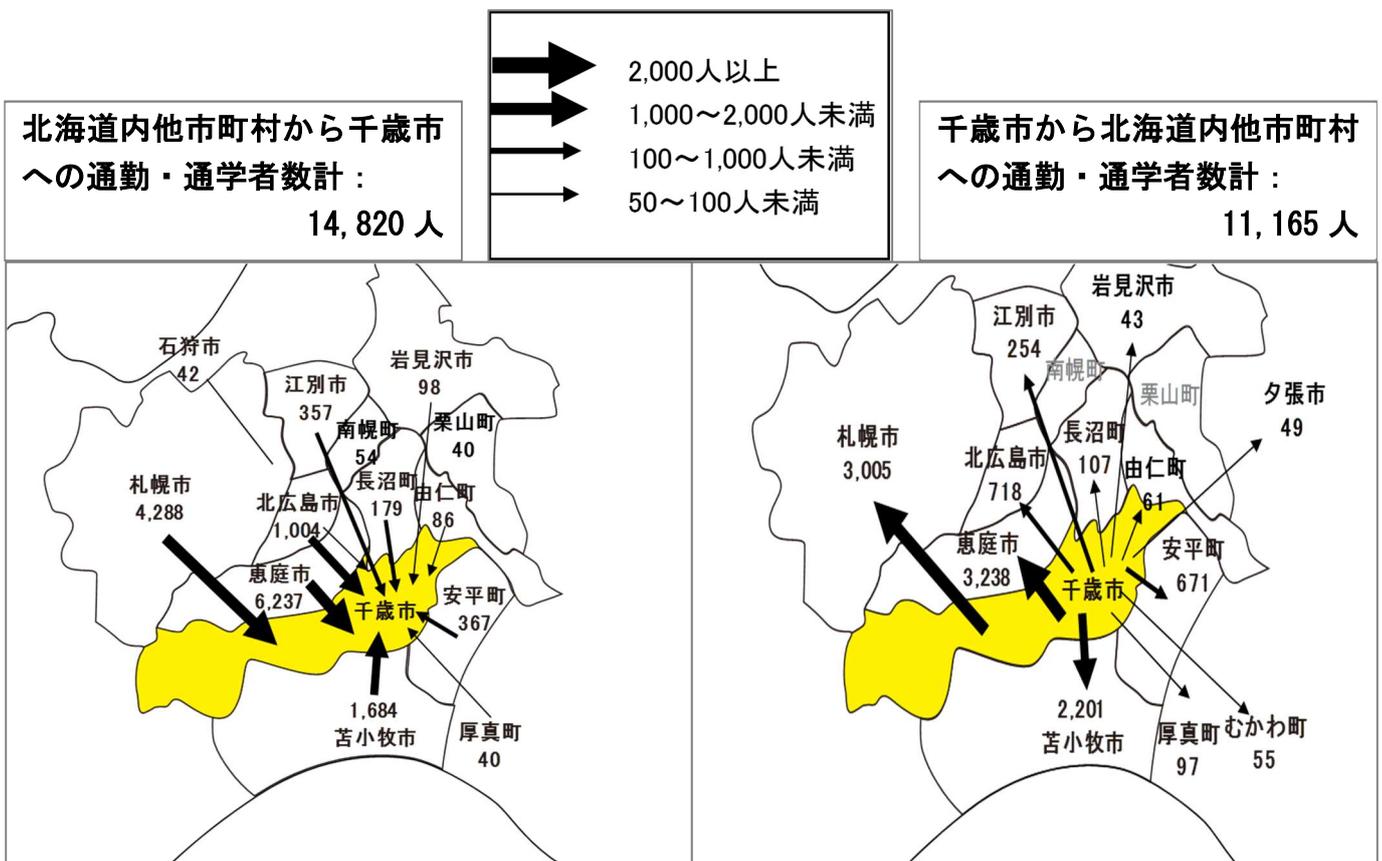
出典：国勢調査結果（総務省）

※千歳市内就業者数：居住地を問わず市内に就業する人数。

### (3) 近隣からの通勤・通学の状況

- 市内には、立地企業のほか、公立千歳科学技術大学、北海道千歳リハビリテーション大学、日本航空大学校などの特色ある高等教育機関が所在しており、多くの学生が市内で学生生活を過ごしています。
- 令和2（2020）年の国勢調査では、北海道内各市町村から本市への通勤・通学者数は14,820人となり、内訳を見ると、恵庭市（6,237人）と札幌市（4,288人）が特に多く、次いで、苫小牧市（1,684人）、北広島市（1,004人）の順になっています。
- 本市から北海道内各市町村への通勤・通学者数は11,165人で、内訳を見ると、恵庭市（3,238人）、札幌市（3,005人）、苫小牧市（2,201人）が特に多くなっています。
- 札幌市・恵庭市・苫小牧市の3市における本市への通勤通学、及び本市からの通勤通学の多さは、本市への転入や本市からの転出の多さと同様の傾向にあります。

(図 21) 通勤・通学者の状況

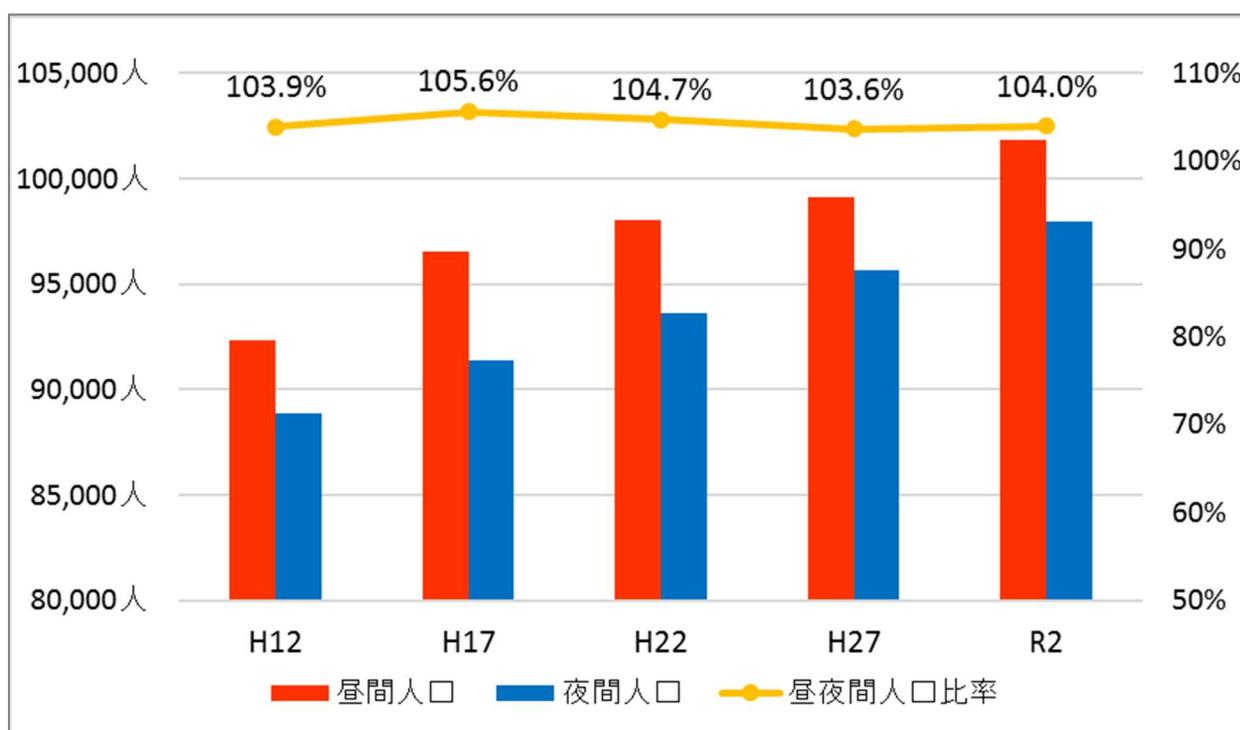


出典：国勢調査結果 [令和2年]（総務省）

#### (4) 昼間人口・夜間人口の推移

- 本市の昼間人口、夜間人口はともに増加傾向となり、令和2（2020）年に初めて昼間人口が10万人を超えています。
- 昼夜間人口比率<sup>\*</sup>は100%を超えており、本市の大きな特徴となっています。その比率は横ばいで推移しています。

(図 22) 昼間人口、夜間人口、昼夜間人口比率



出典：国勢調査結果（総務省）

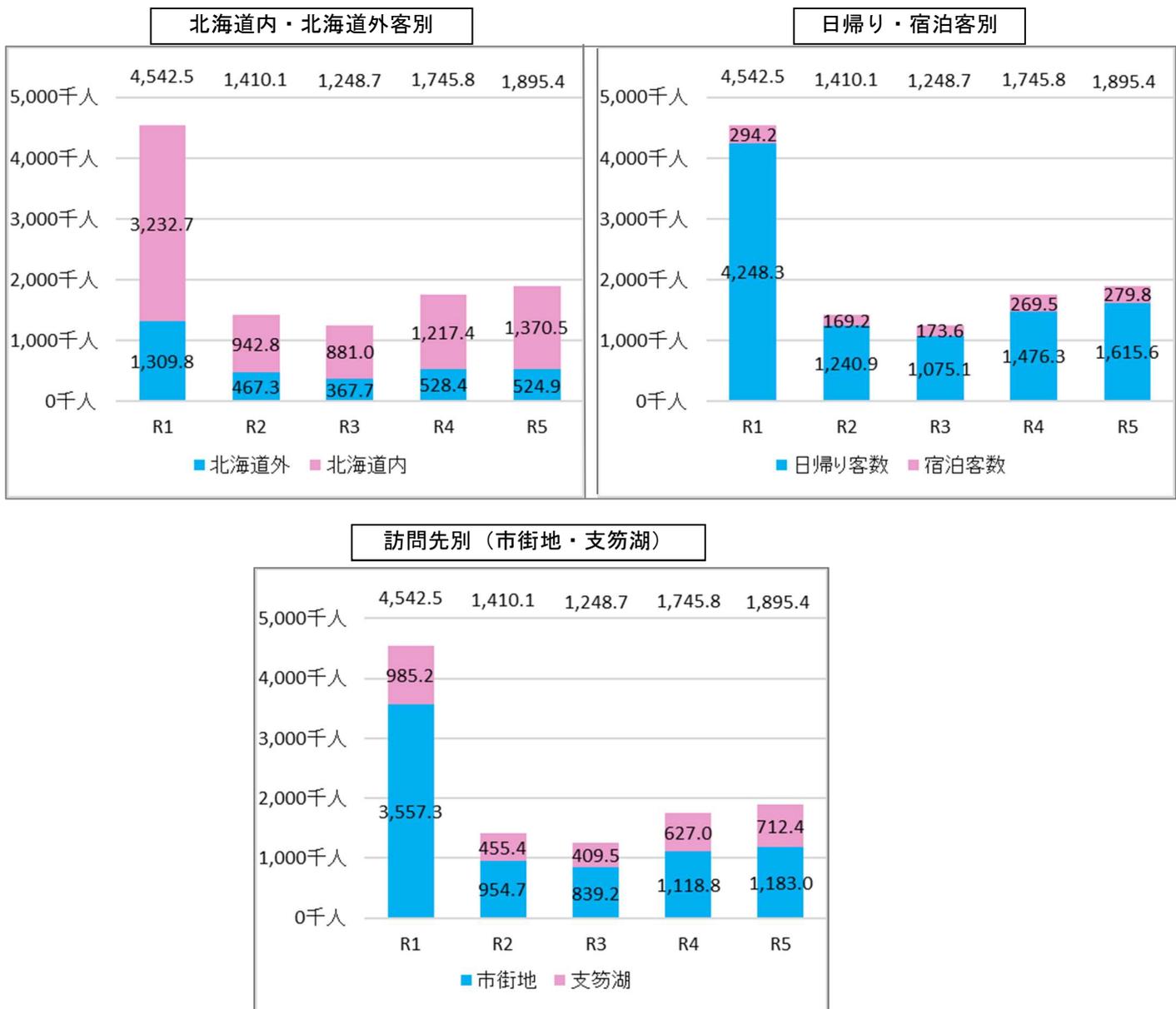
※昼夜間人口比率：夜間人口（常住人口）と昼間人口の割合で、夜間人口100人あたりの昼間人口で表します。日常的に通勤・通学で域外から来る人の割合を示しています。

## 6 交流人口

### (1) 観光入込客数

- 本市の観光入込客数は、新型コロナウイルス感染症の影響により令和2（2020）年に大幅に減少しました。
- 令和2（2020）年から令和5（2023）年にかけては、緩やかな増加を続けています。

(図 23) 千歳市内の観光入込客数の推移（年度別）



出典：観光入込客数調査（千歳市）

## 第2章 将来人口の推計

### 1 将来推計人口

#### (1) 人口推計の考え方

令和元年度に策定した人口ビジョンでは、人口推計に加え、人口増加の取組を進めたことによる効果を見込んで、本市の人口の将来展望を令和12（2030）年に10万人としていました。

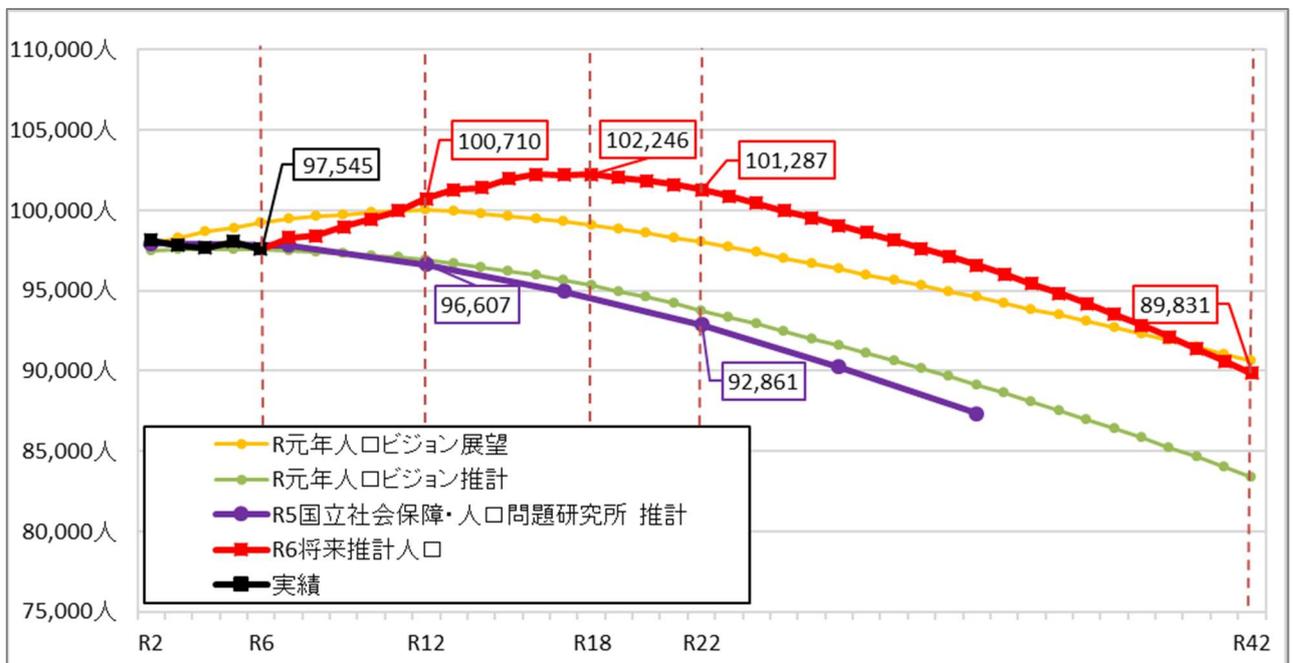
令和5（2023）年12月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した、令和2（2020）年の国勢調査に基づく人口推計は、令和2（2020）年の97,950人をピークに、令和12（2030）年は96,607人、令和22（2040）年は92,861人に減少するという推計となっていますが、Rapidus立地の影響を反映していません。

改訂する人口ビジョンでは、「千歳市将来ビジョン」で示したRapidus立地に伴う人口増加効果を加えた推計を、確実性の高い人口の将来展望として置き換えて、「将来推計人口」としています。

本市が半導体関連産業集積による人口増加効果を踏まえて新たに算出した将来推計人口は、令和12（2030）年に100,710人、令和18（2036）年にはピークを迎え102,246人が見込まれる結果となりました。

その後は、社会動態の増加は続くものの、出生数減少や死亡数増加による自然動態の減少の影響を受け、令和42（2060）年まで減少する見込みとなります。

(図24) 将来推計人口



- 将来推計人口：基準人口は、住民基本台帳人口の令和6（2024）年10月1日時点としてコーホート要因法及び「千歳市将来ビジョン」で算定したRapidus立地効果を加え推計しています。生残率（死亡率）及び移動率は過去7年間の平均値、合計特殊出生率は過去2年間の平均値（1.24）としています。

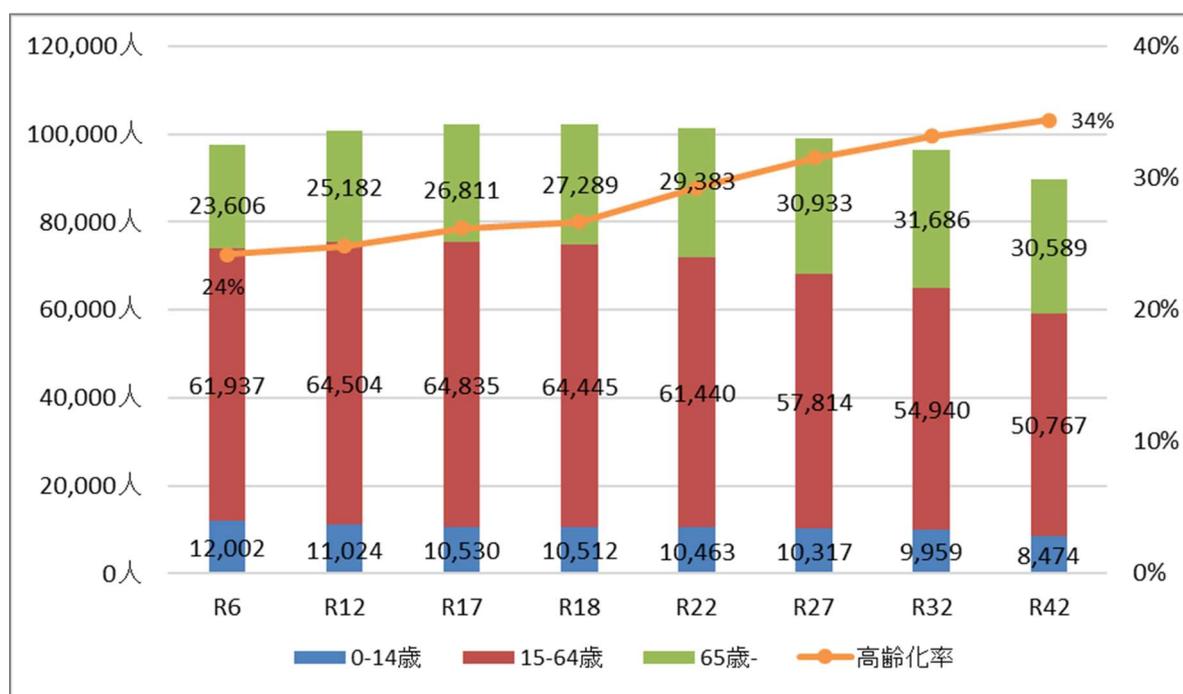
出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」

## (2) 年齢3区分別人口の変化

年齢構成の変化を比較すると、0～14歳（年少人口）は、令和5（2023）年から減少傾向で推移します。15～64歳（生産年齢人口）は、総人口のピークを迎える令和18（2036）年に約2,500人近く増加しますが、その後減少に転じます。

65歳以上（老年人口）は、令和32（2050）年まで増加傾向となり、高齢化率をみると、令和42（2060）年までは上昇を続ける推移となります。

(図 25) 将来推計人口 年齢3区分別人口



※推計値は、小数点以下第1位を四捨五入した値のため、年齢3区分別人口の合計と総人口は必ずしも一致しません。

## (3) Rapidus 立地に伴う人口増加効果予測

Rapidus は、本市の工業団地「千歳美々ワールド」において、令和7（2025）年4月に試作ライン稼働、令和9（2027）年に量産を開始する計画を明らかにしており、現在、次世代半導体製造拠点（IIM）の建設工事が着々と進められています。

半導体の製造には様々な工程があり、また数多くの企業が関わることから、「千歳市将来ビジョン」では、各企業へのヒアリングや先行事例を参考に Rapidus 立地に伴う企業集積等による人口増加効果を、表2で示した条件に基づき試算しています。

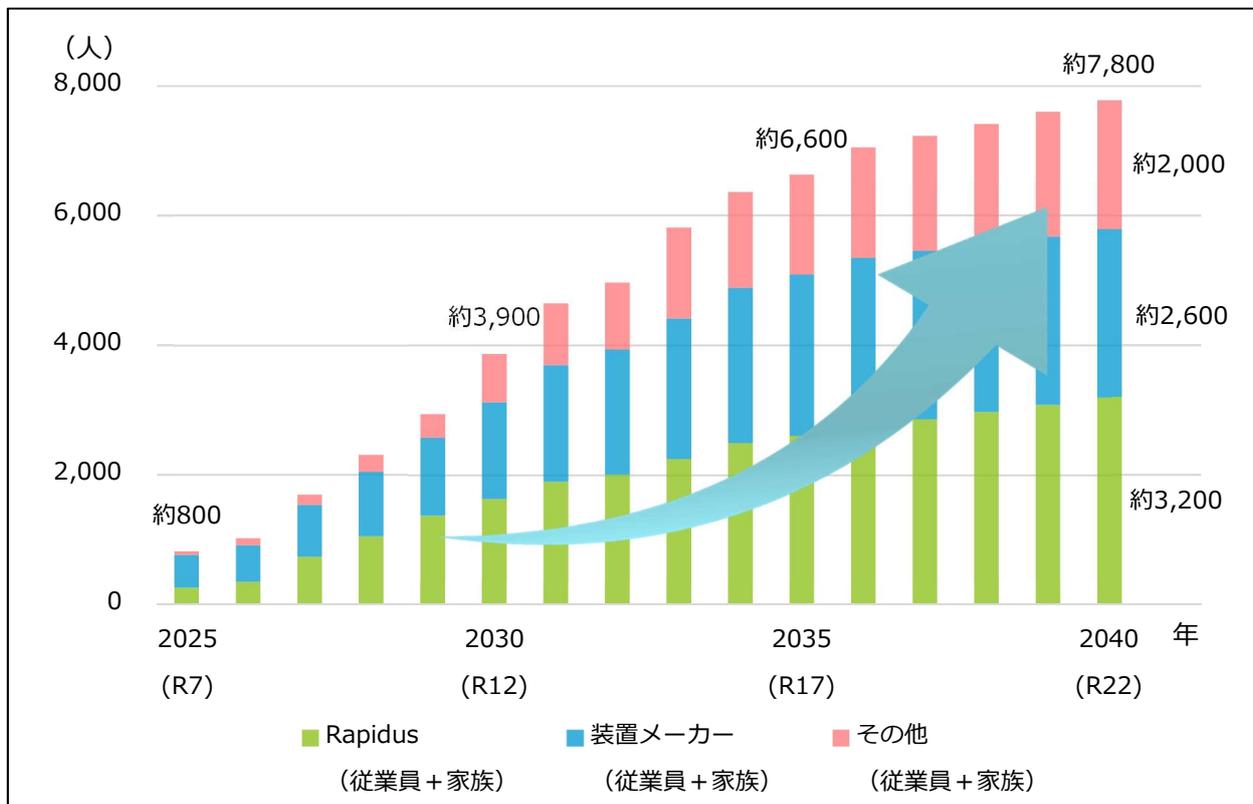
試算した結果では、Rapidus の生産能力に連動して人口増加が進むと想定し、令和22（2040）年までの累計で7,800人の人口増加効果があるとしています。

(表2) 【人口効果試算における前提条件】

項目	人口動態条件	内容
Rapidus 従業員	IIM で働く Rapidus 従業員は主に道外などで採用され、本人のほか、家族を伴って転入する人もいと想定します。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試作ライン稼働時は 300 人から 400 人程度でスタート</li> <li>2. IIM-1 フル稼働時には 800 人から 1,000 人程度</li> </ol>
装置メーカー従業員	装置メーカーの従業員は IIM 内の装置のメンテナンスや緊急時の対応を行うため、本人のほか、家族を伴って転入する人もいと想定します。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 試作ライン稼働時は 400 人程度のサポート人員</li> <li>2. IIM-1 フル稼働時には 1,000 人規模</li> </ol>
その他	工場インフラ設備企業や研究機関などの関連企業や団体からも、本人のほか、家族を伴って転入する人もいと想定します。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 算定対象は工場インフラ設備企業、物流企業、研究機関など</li> <li>2. 効果が顕著に出始めるのは IIM-2 操業開始前後と想定</li> </ol>

引用：千歳市将来ビジョン

(図 26) 【半導体産業集積による人口増加効果予測】



引用：千歳市将来ビジョン

## 第3章 目指す方向性

---

### 1 目指す方向性

本市では、人口増加が続く活気あふれるまちづくりに向け、第7期総合計画基本構想において、次の3つの目指す方向性と目標人口10万人の達成を掲げています。

#### 目指す方向性

##### 方向性1

雇用の創出や教育環境、住宅環境の充実等に取り組み、“人口の定着、転入者の増加”を目指します。

##### 方向性2

結婚、出産、子育てに関する希望をかなえる環境づくりに取り組み、“出生数の回復”を目指します。

##### 方向性3

千歳市が持つ多くの観光資源や地理的優位性などを生かして“交流人口の拡大”や“関係人口の創出”を目指します。

### 2 目指す方向性に向けた取組

目指す方向性を人口の定着・転入者の増加、合計特殊出生率の維持や、交流人口の拡大や関係人口の創出とし、その取組を行います。

## (1) 社会動態

- 人口の定着や転入者の増加を促すためには、産業振興を通じた雇用の創出や人材確保に向けた支援が必要です。
- 様々な分野の企業誘致を推進するとともに、受入環境を整備する取組が必要です。
- Rapidus の立地により、今後更なる半導体産業集積の可能性があることから、関連企業の誘致を推進していくことが必要です。
- 本市には、多くの自衛隊の隊員やその家族が居住しており、自衛隊は本市のまちづくりに深いかかわりを持つことから、自衛隊の体制維持・強化に向けた取組や自衛隊との共存共栄によるまちづくりが必要です。
- 出生数と密接に関係している 20 歳代、30 歳代の子育て世代の転出が目立つことから、教育環境の充実や住宅環境の整備等の取組が必要です。

## (2) 自然動態

- 全国的に出生率は低下傾向にあり、その回復は厳しさを増しています。本市においても低下傾向にありますが、現状の出生率を維持し、少子化の進行を緩和するためには、本市で出産・子育てしたいと思える環境づくりが必要です。
- 安心して子どもを産み育てることができるよう、妊娠・出産から子育てまで、ニーズに応じた切れ目のないきめ細やかな子育て支援策が必要です。

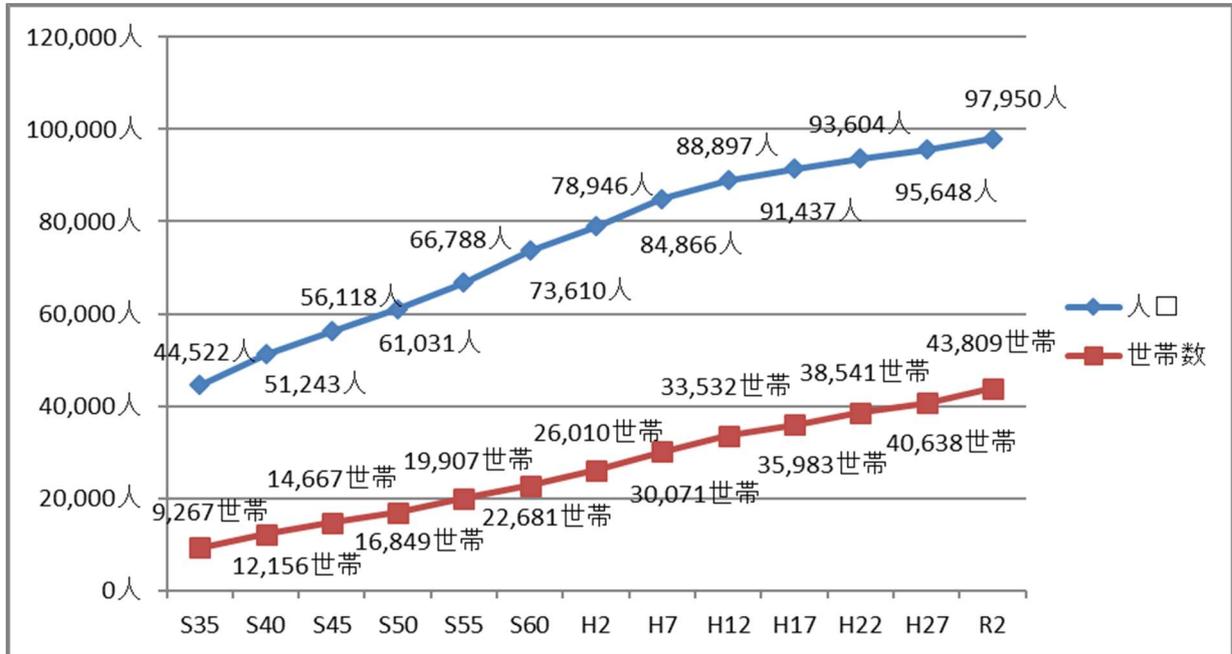
## (3) 交流人口・関係人口

- 本市は、北海道の空の玄関口である新千歳空港が所在するほか、道央圏有数の観光資源である支笏湖などを有しており、観光振興やスポーツ合宿の誘致など、交流人口を拡大する取組が必要です。
- 新千歳空港は本市のみならず北海道全体の交流人口創出の中心的な役割を担っており、また、多くの雇用を創出していることから、空港を核とした取組が有効です。
- シティセールスの積極的な取組により、本市と多様に関わっていただく関係人口の創出が必要です。

## 【参考資料】

### 1 「第1章 人口の現状」に関連する図・表

(図1) 国勢調査における千歳市の人口・世帯数の推移



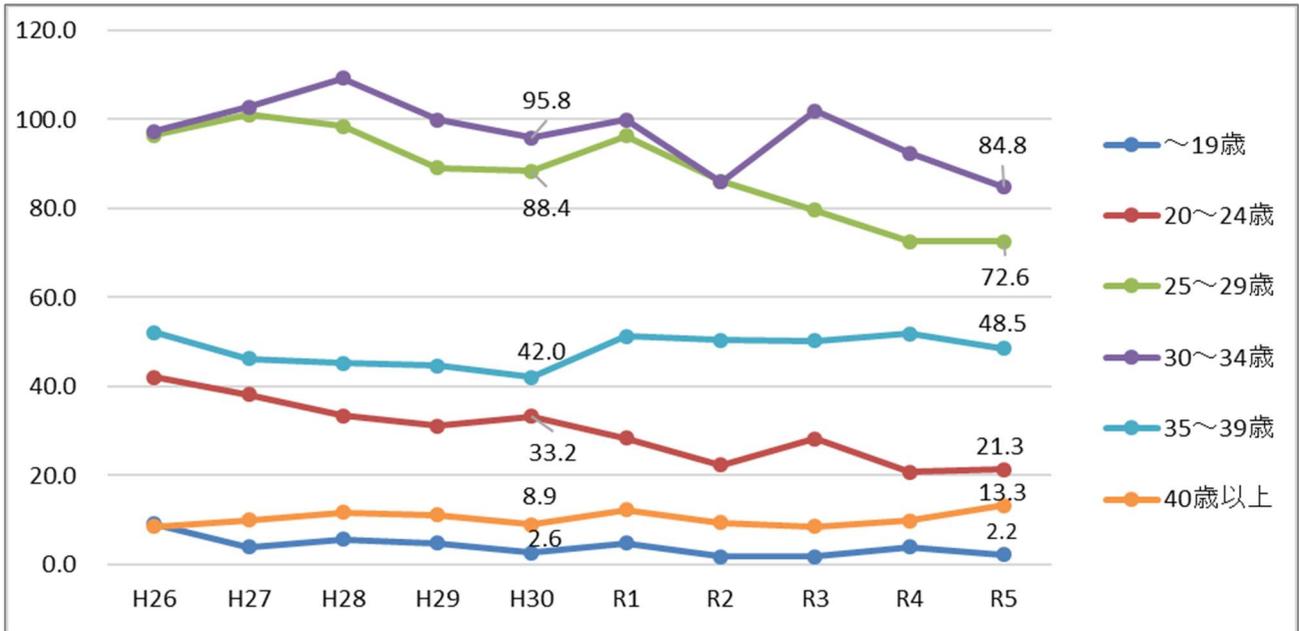
出典：国勢調査（総務省）

(表1) 北海道内市町村の人口増減率・数（令和2年調査が平成27年調査を上回った市町村）

	市町村	R2人口	H27人口	増減率	増減数
1	占冠村	1,306人	1,211人	+7.8%	+95人
2	赤井川村	1,165人	1,121人	+3.9%	+44人
3	東川町	8,314人	8,111人	+2.5%	+203人
4	千歳市	97,950人	95,648人	+2.4%	+2,302人
5	ニセコ町	5,074人	4,958人	+2.3%	+116人
6	札幌市	1,973,395人	1,952,356人	+1.1%	+21,039人
7	鶴居村	2,558人	2,534人	+0.9%	+24人
8	恵庭市	70,331人	69,702人	+0.9%	+629人
9	倶知安町	15,129人	15,018人	+0.7%	+111人
10	江別市	121,056人	120,636人	+0.3%	+420人
11	上士幌町	4,778人	4,765人	+0.3%	+13人
12	留寿都村	1,911人	1,907人	+0.2%	+4人
(参考)	全道計	5,224,614人	5,381,733人	△2.9%	△157,119人

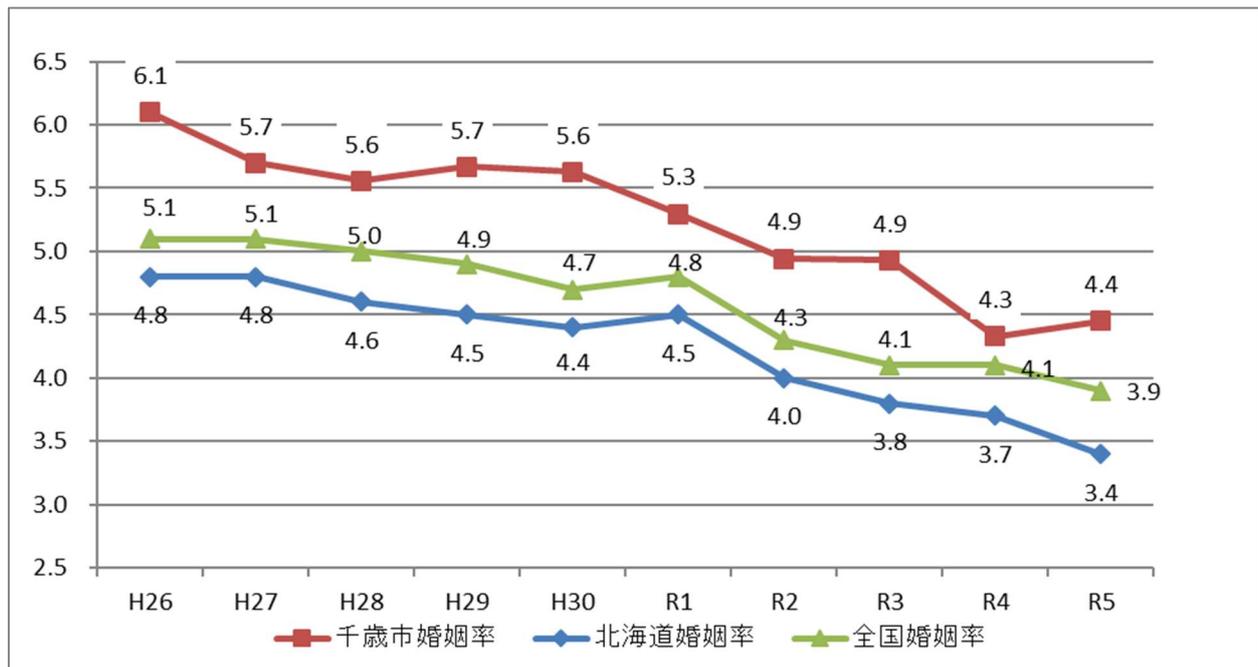
出典：国勢調査（総務省）

(図2) 千歳市における年齢別の出生率（人口千人あたりの出生数）の推移



出典：人口動態統計（厚生労働省）及び住民基本台帳[10月1日時点]（千歳市）より算出

(図3) 婚姻率（人口千人あたりの婚姻数）の推移



出典：人口動態統計（厚生労働省）、住民基本台帳（千歳市）

(表2) 純移動数等の推移 (転入者数・転出者数の多い自治体)

転入					
	R1	R2	R3	R4	R5
札幌市	1,276	1,177	1,073	1,038	1,264
函館市	117	79	118	88	79
旭川市	152	145	125	131	136
帯広市	113	94	96	94	94
苫小牧市	303	298	292	270	278
恵庭市	368	368	320	365	329
◆青森県	112	89	104	105	76
◆埼玉県	260	260	311	288	242
◆千葉県	149	112	96	140	150
◆東京都	257	273	292	269	320
◆神奈川県	265	332	290	255	262
◆福岡県	121	145	97	92	138
転出					
	R1	R2	R3	R4	R5
札幌市	1,403	1,335	1,428	1,400	1,363
函館市	81	68	101	70	66
旭川市	120	135	139	101	114
帯広市	95	121	81	87	74
苫小牧市	227	251	254	231	260
恵庭市	515	478	487	426	398
◆青森県	90	89	136	117	89
◆埼玉県	190	205	177	221	186
◆千葉県	170	157	168	169	154
◆東京都	429	367	368	400	421
◆神奈川県	189	182	192	200	201
◆福岡県	108	97	99	53	148
純移動					
	R1	R2	R3	R4	R5
札幌市	-127	-158	-355	-362	-99
函館市	36	11	17	18	13
旭川市	32	10	-14	30	22
帯広市	18	-27	15	7	20
苫小牧市	76	47	38	39	18
恵庭市	-147	-110	-167	-61	-69
◆青森県	22	0	-32	-12	-13
◆埼玉県	70	55	134	67	56
◆千葉県	-21	-45	-72	-29	-4
◆東京都	-172	-94	-76	-131	-101
◆神奈川県	76	150	98	55	61
◆福岡県	13	48	-2	39	-10

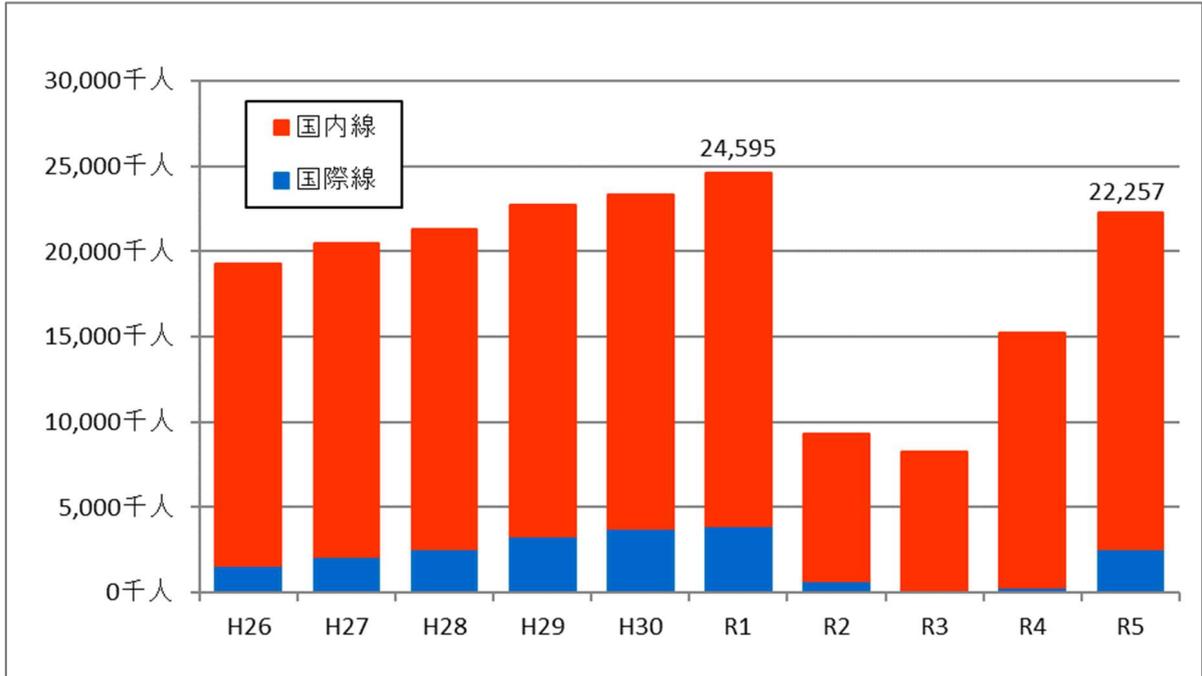
出典：住民基本台帳人口移動報告（総務省）

(表3) 15歳以上就業者・通学者の従業・通学地（主な近隣市町村）

市町村名	令和2年国勢調査			平成27年国勢調査		
	市外で従業・通学	市外から従業・通学	差引	市外で従業・通学	市外から従業・通学	差引
恵庭市	3,238人	6,237人	△ 2,999人	3,058人	5,893人	△ 2,835人
札幌市	3,005人	4,288人	△ 1,283人	2,958人	3,710人	△ 752人
苫小牧市	2,201人	1,684人	517人	2,051人	1,434人	617人
北広島市	718人	1,004人	△ 286人	694人	1,110人	△ 416人
安平町	671人	367人	304人	527人	439人	88人
江別市	254人	357人	△ 103人	228人	324人	△ 96人
長沼町	107人	179人	△ 72人	79人	183人	△ 104人
厚真町	97人	40人	57人	76人	31人	45人
由仁町	61人	86人	△ 25人	42人	76人	△ 34人
岩見沢市	43人	98人	△ 55人	33人	86人	△ 53人
栗山町	25人	40人	△ 15人	19人	46人	△ 27人

出典：国勢調査（総務省）

(図4) 新千歳空港乗降客数の推移



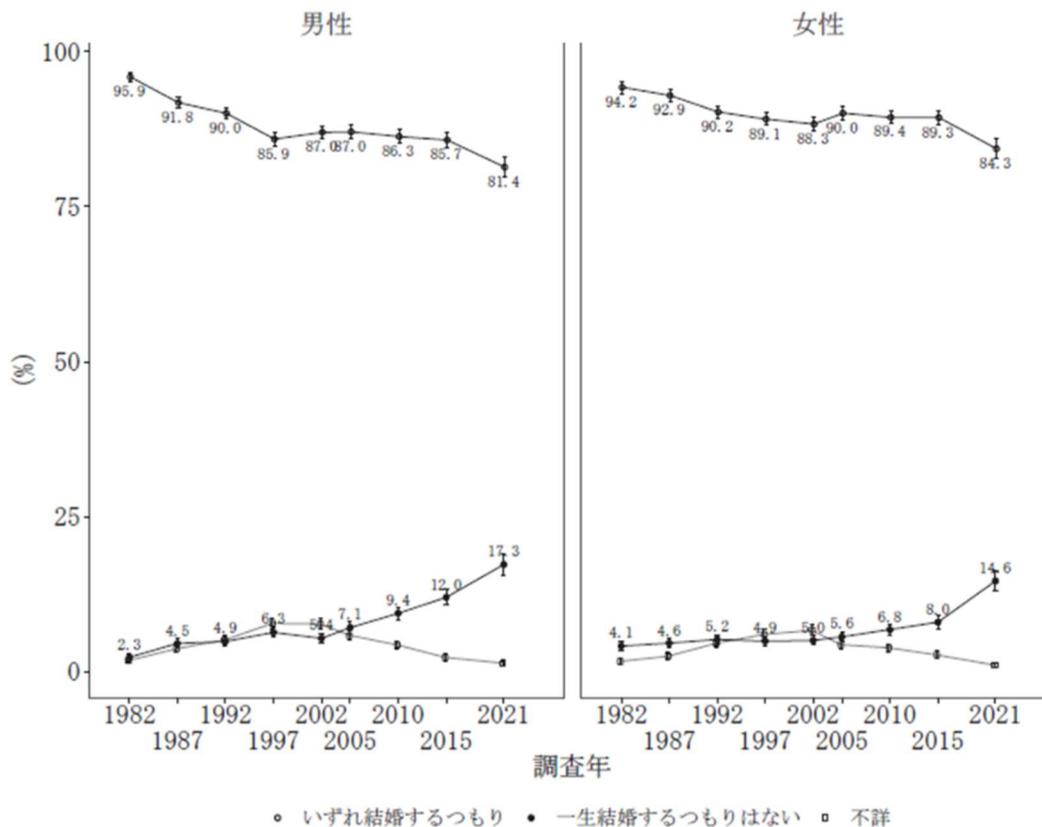
出典：新千歳空港の航空概況速報（東京航空局新千歳空港事務所）

## 2 結婚と出産に関する意識（全国調査）

令和3年（2021年）に国立社会保障・人口問題研究所が「第16回出生動向基本調査（結婚と出産に関する全国調査）」を実施しました。我が国における未婚者の「結婚」に対する意識や結婚している夫婦の「出産」に対する意識や状況は次のとおりです。

- いずれ結婚しようとする未婚者の割合は男性81.4%（前回85.7%）、女性84.3%（同89.3%）で、依然として高い水準にありますが、近年では、男女とも一生結婚するつもりはないとの回答が増加傾向にあります。

（図5） 調査別にみた、未婚者の生涯の結婚意思

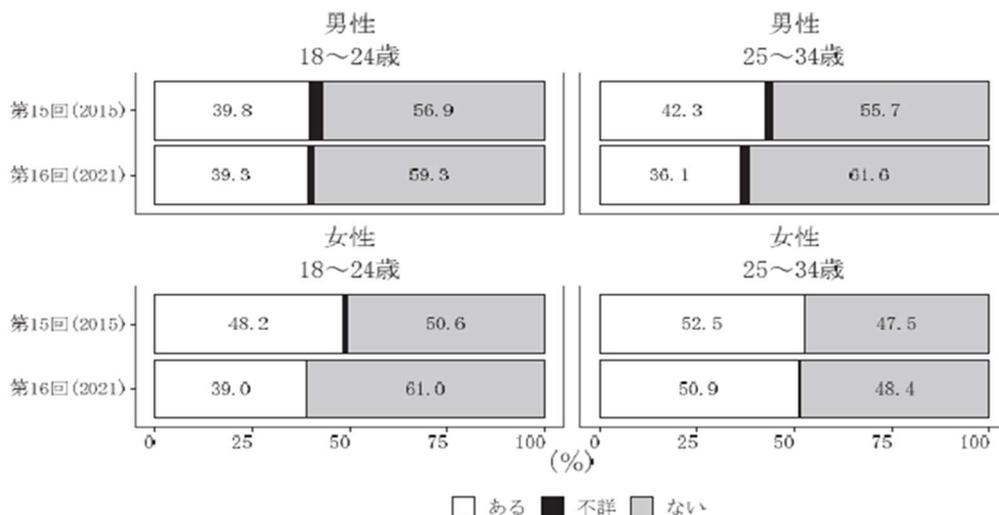


注：対象は18～34歳の未婚者。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。客体数は、第8回（1982）男性（2,732）、女性（2,110）、第9回（1987）男性（3,299）、女性（2,605）、第10回（1992）男性（4,215）、女性（3,647）、第11回（1997）男性（3,982）、女性（3,612）、第12回（2002）男性（3,897）、女性（3,494）、第13回（2005）男性（3,139）、女性（3,064）、第14回（2010）男性（3,667）、女性（3,406）、第15回（2015）男性（2,705）、女性（2,570）、第16回（2021）男性（2,033）、女性（2,053）。設問「自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。」（1. いずれ結婚するつもり、2. 一生結婚するつもりはない）。

【報告書図表1-1-1 調査別にみた、未婚者の生涯の結婚意思】

○ 「一生結婚するつもりはない」と回答した18～34歳の未婚者で、これまでに「いずれ結婚するつもり」と思ったことがあるかを調査したところ、意思の変化はないと回答した18～24歳の女性は61.0%（同50.6%）と増加しました。

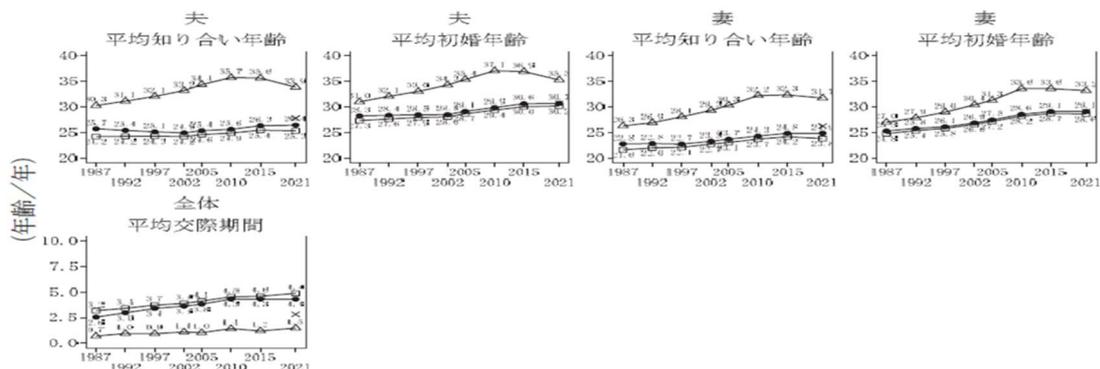
(図6) 調査年齢別にみた、これまでに「いずれ結婚するつもりがある」と思った経験の有無（結婚意思のない未婚者）



注：対象は、「一生結婚するつもりはない」と回答した18～34歳の未婚者。客体数は、第15回男性（18～24歳123、25～34歳201）、女性（同85、120）、第16回男性（18～24歳135、25～34歳216）、女性（同141、159）。設問「現在のお気持ちは別として、これまでに「いずれ結婚するつもり」と思ったことはありますか。」（1. ある、2. ない）。  
【報告書図表1-4-1 調査・年齢別にみた、これまでに「いずれ結婚するつもりがある」と思った経験の有無（結婚意思のない未婚者）】

○ 夫妻の初婚年齢は、夫30.7歳（同30.6歳）、妻29.1歳（同29.1歳）と前回調査と同じ推移で、晩婚化となっています。

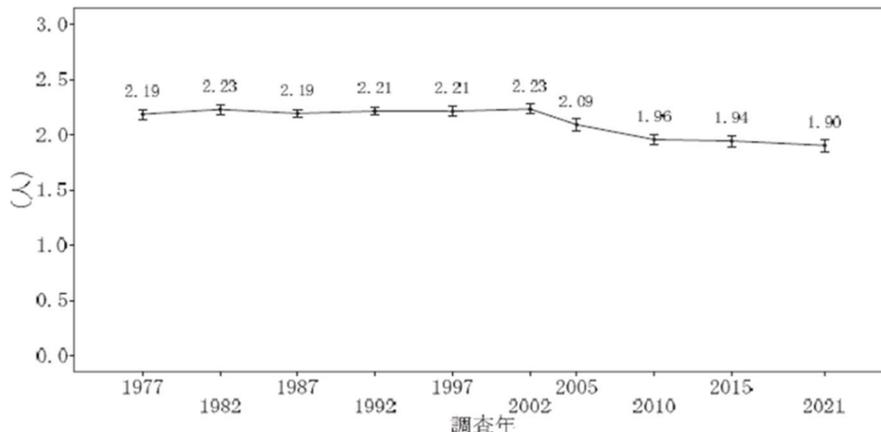
(図7) 調査・結婚形態別にみた、平均知り合い年齢、平均初婚年齢、平均交際期間



● 全結婚（総数） □ 恋愛結婚 △ 見合い結婚 × ネット（インターネット）で  
注：対象は各調査時点より過去5年間に結婚した初婚どうしの夫婦。第15回以前は妻の調査時年齢50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の夫婦について集計。各平均年齢と平均交際期間は満年齢に0.5を加えた値をもとに算出している。「恋愛結婚」は夫妻が知り合ったきっかけによって分類。妻の平均初婚年齢の客体数（全結婚（総数）、恋愛結婚、見合い結婚）は、第9回（1987）（1,289、947、314）、第10回（1992）（1,342、1,102、223）、第11回（1997）（1,145、997、123）、第12回（2002）（1,221、1,090、91）、第13回（2005）（885、774、63）、第14回（2010）（963、856、56）、第15回（2015）（738、641、56）、第16回（2021）（656、517、62）。第16回（2021）の「ネット（インターネット）」の客体数は73、平均知り合い年齢は（夫27.8、妻26.2）、平均初婚年齢は（夫30.7、妻29.1）、平均交際期間は2.8年。設問「あなた方夫婦の（中略）（2）結婚生活を始めた年月（中略）について、あてはまる番号に○をつけ、下線の欄に数字を記入してください。」設問「あなた方夫婦が、（1）初めてお知り合いになったのはいつですか（後略）」  
【報告書図表5-1-1 調査・結婚形態別にみた、平均知り合い年齢、平均初婚年齢、平均交際期間（調査時点より過去5年間に結婚した初婚どうしの夫婦）】

- 夫婦の完結出生児数（最終的な出生子ども数の平均値）は、前回調査を更に下回りました（前回 1.94 → 1.90 人）。半数を超える夫婦が 2 人の子どもを生んでいる一方で（50.8%）、子ども 1 人の夫婦が増加しています（前回 18.5 → 19.7%）。

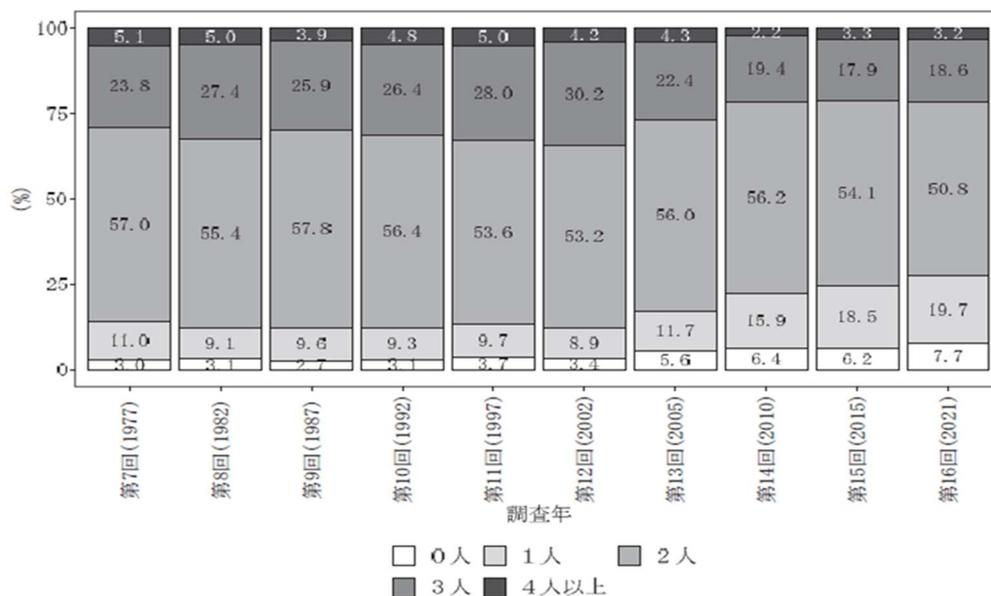
（図 8） 調査別にみた、夫婦の完結出生子ども数（結婚持続期間 15～19 年）



注：対象は結婚持続期間15～19年の初婚どうしの夫婦。第15回以前は妻の調査時年齢50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の夫婦について集計。出生子ども数不詳を除き、8人以上を8人として平均値を算出。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。第16回(2021)について、前回までと同様に妻の年齢50歳未満(結婚年齢35歳未満)で集計した場合は、1.99。ここには妻が30～34歳で結婚した一部と35歳以上で結婚した夫婦が含まれない。客体数は、第7回(1977)1,427、第8回(1982)1,429、第9回(1987)1,755、第10回(1992)1,849、第11回(1997)1,334、第12回(2002)1,257、第13回(2005)1,078、第14回(2010)1,385、第15回(2015)1,232、第16回(2021)948。各集計対象の平均初婚年齢は以下の通り：第7回(1977)23.9歳、第8回(1982)23.9歳、第9回(1987)23.9歳、第10回(1992)24.2歳、第11回(1997)24.8歳、第12回(2002)25.1歳、第13回(2005)25.4歳、第14回(2010)25.8歳、第15回(2015)26.1歳(いずれも初婚年齢35歳未満)、第16回(2021)27.0歳(初婚年齢35歳未満)、27.8歳(初婚年齢40歳未満)。

【報告書図表6-1-1 調査別にみた、夫婦の完結出生子ども数（結婚持続期間15～19年）】

（図 9） 調査別にみた、夫婦の出生子ども数分布の推移（結婚持続期間 15～19 年）

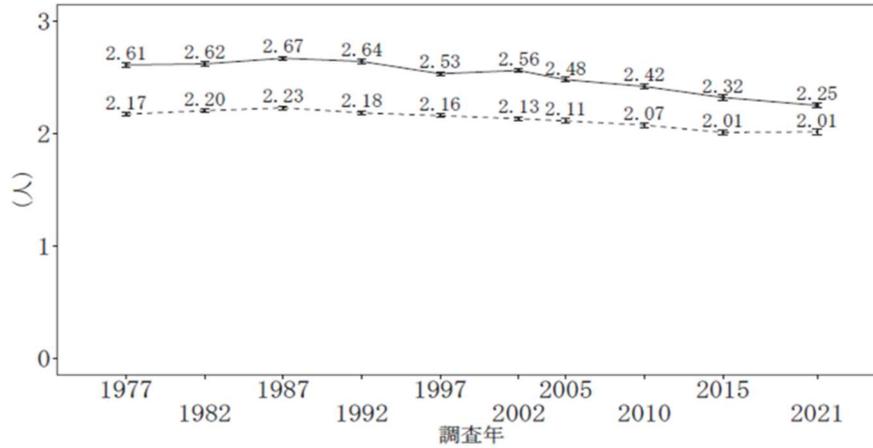


注：対象は結婚持続期間15～19年の初婚どうしの夫婦。第15回以前は妻の調査時年齢50歳未満、第16回は妻が50歳未満で結婚し、妻の調査時年齢55歳未満の夫婦について集計。出生子ども数不詳を除く。第16回について妻の年齢50歳未満に限定した場合、0人(5.5%)、1人(18.1%)、2人(52.9%)、3人(20.2%)、4人以上(3.4%)。

【報告書図表6-1-2 調査別にみた、夫婦の出生子ども数分布の推移（結婚持続期間15～19年）】

○ 夫婦の平均理想子ども数は過去最低となっており、平均予定子ども数は前回と同じ人数となっています。（理想子ども数前回 2.32 → 2.25 人、予定子ども数同 2.01 → 2.01 人）。

(図 10) 調査別にみた、夫婦の平均理想子ども数と平均予定子ども数

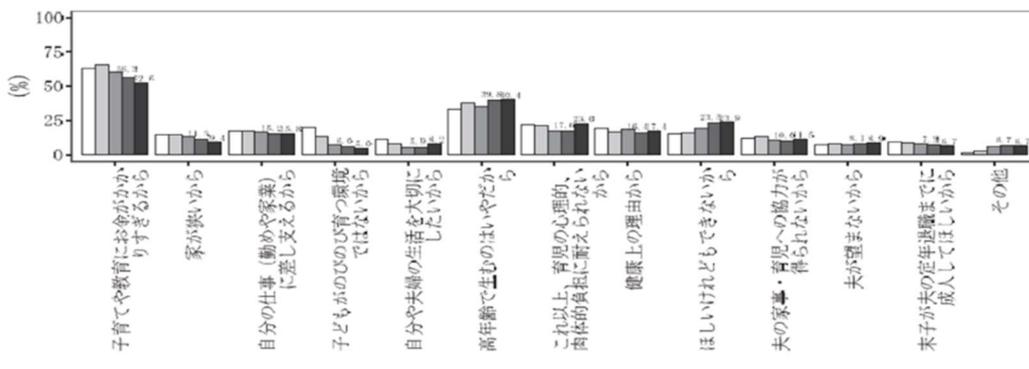


— 平均理想子ども数 -- 平均予定子ども数

注：対象は妻の年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。予定子ども数は現存子ども数と追加予定子ども数の和。理想・予定子ども数不詳を除き、8人以上を8人として平均値を算出。図中のマーカー上のエラーバーは95%信頼区間を示している。なお、未婚女性の希望子ども数との比較の観点から、妻の年齢を35歳未満に限定すると、平均理想子ども数は第7回(1977)2.52、第8回(1982)2.59、第9回(1987)2.61、第10回(1992)2.54、第11回(1997)2.43、第12回(2002)2.43、第13回(2005)2.40、第14回(2010)2.41、第15回(2015)2.43、第16回(2021)2.29、平均予定子ども数は、第7回(1977)2.18、第8回(1982)2.25、第9回(1987)2.31、第10回(1992)2.21、第11回(1997)2.18、第12回(2002)2.11、第13回(2005)2.15、第14回(2010)2.24、第15回(2015)2.28、第16回(2021)2.17である。設問①理想子ども数：「あなた方ご夫婦にとって理想的な子どもの数は何人ですか。」(0. 子どもはいらない、1. 1人、2. 2人、3. 3人、4. 4人、5. 5人以上( )人)。②予定子ども数：「そうしますと、あなた方ご夫婦は全部で何人のお子さんを持つつもりですか。」(0. 子どもは持たない、1. 1人、2. 2人、3. 3人、4. 4人、5. 5人以上( )人)。  
【報告書図表7-1-1 調査別にみた、夫婦の平均理想子ども数と平均予定子ども数】

○ 夫婦の予定子ども数が理想子ども数を下回る理由として最も多いのは、依然として「子育てや教育にお金がかかりすぎる」(52.6%)、次いで「高年齢で生むのはいやだから」(40.4%)となっています。

(図 11) 調査別にみた、理想の数の子どもの持たない理由(予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦)



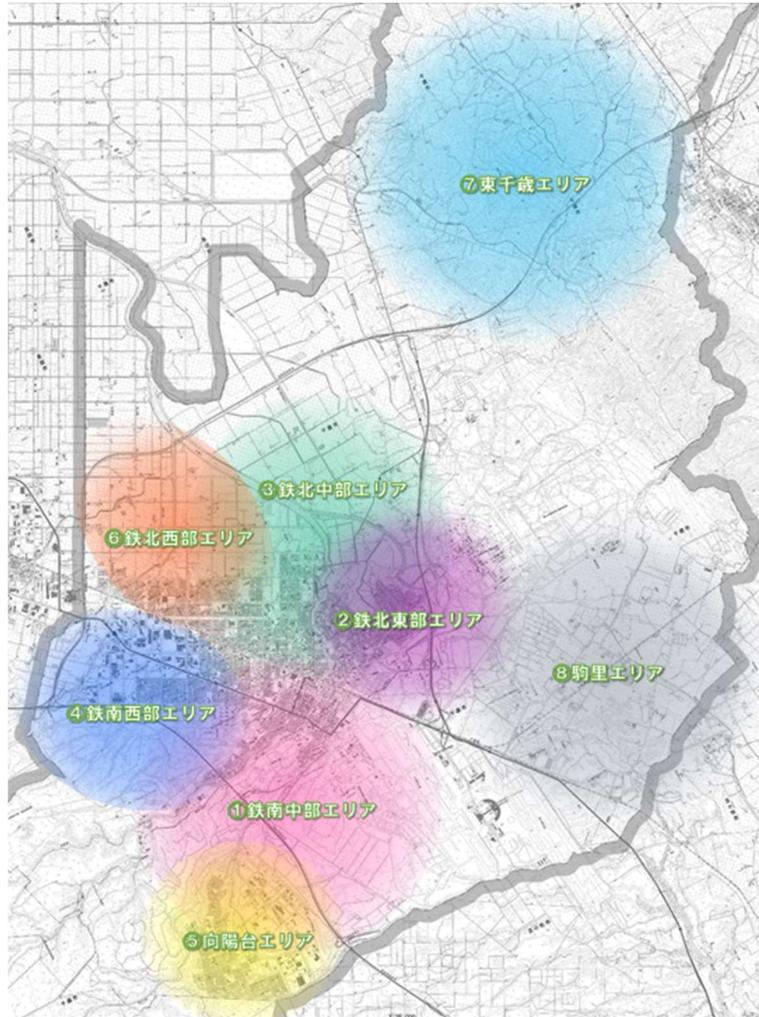
□ 第12回(2002) ■ 第13回(2005) ■ 第14回(2010) ■ 第15回(2015) ■ 第16回(2021)

注：対象は予定子ども数が理想子ども数を下回る、妻の調査時年齢50歳未満の初婚どうしの夫婦。不詳を含まない選択率。複数回答のため合計値は100%を超える。客体数は、第12回(2,134)、第13回(1,831)、第14回(1,835)、第15回(1,253)、第16回(854)。予定子ども数が理想子ども数を下回る初婚どうしの夫婦の割合は、第12回(37.3%)、第13回(35.3%)、第14回(32.8%)、第15回(30.2%)、第16回(24.5%)。設問：「持つつもりの子どもの数が、理想的な子どもの数よりも少ないのはどうしてですか。下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最も重要な理由には◎をつけてください。」  
【報告書図表7-4-1 調査別にみた、理想の数の子どもの持たない理由(予定子ども数が理想子ども数を下回る夫婦)】

### 3 将来推計人口（地区別人口推計）

#### （1）地区区分の設定

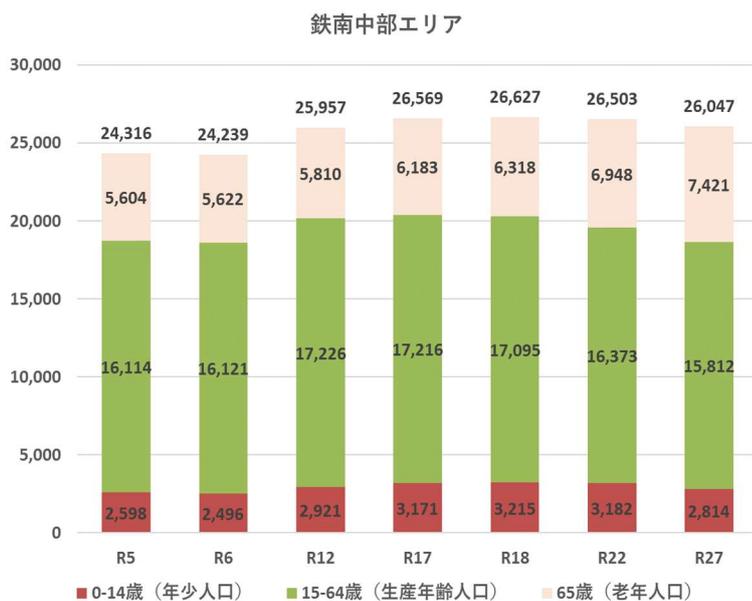
- 本推計は将来推計人口を踏まえ、参考資料として8つの地区に分け、令和27（2045）年まで推計しています。
- 地区の区分については、次の図のとおりとしています。



#### （2）地区別人口推計

- 推計方法は、住民基本台帳人口の令和6（2024）年10月1日時点の各地区の基準人口に「将来推計人口」と同様のコーホート要因法（生残率・移動率・合計特殊出生率）を用い、Rapidus立地効果を各地区（駒里・東千歳地区を除く）に振り分けています。
- Rapidus立地効果の振り分け（駒里・東千歳地区を除く）は、地区ごとに見込まれる物件供給戸数（令和6（2024）年10月時点情報）の割合で振り分けし、それ以降は、地区別の人口割合で振り分けています。
- 推計値は、小数点以下第1位を四捨五入した値のため、年齢3区分別人口の合計と総人口は必ずしも一致しません。

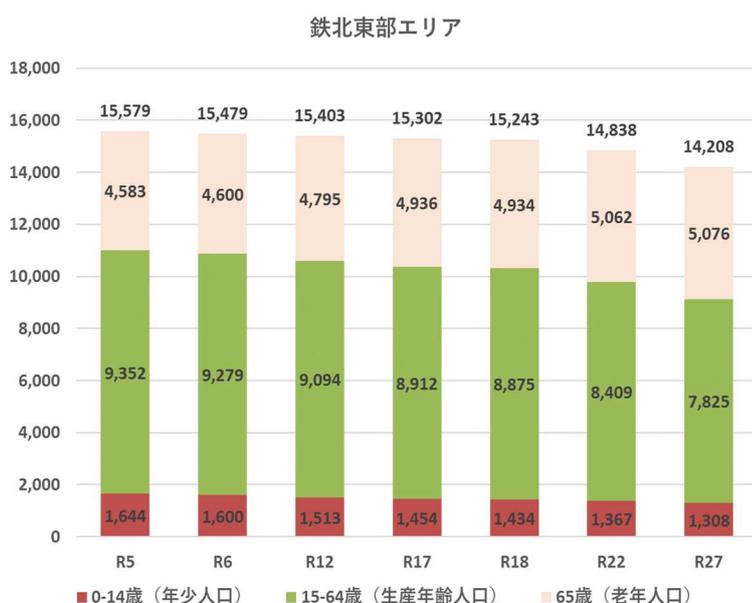
## ① 鉄南中部エリア



- 令和6（2024）年10月の鉄南中部エリアの人口は、24,239人で市の総人口の24.8%を占めています。
- 令和27（2045）年の人口は、26,047人まで増加する見込みで、増加率は約7.5%となります。

鉄南中部エリア	R5	R6	R12	R17	R18	R22	R27
0-14歳（年少人口）	11%	10%	11%	12%	12%	12%	11%
15-64歳（生産年齢人口）	66%	67%	66%	65%	64%	62%	61%
65歳（老年人口）	23%	23%	22%	23%	24%	26%	28%

## ② 鉄北東部エリア



- 令和6（2024）年10月の鉄北東部エリアの人口は、15,479人で市の総人口の15.9%を占めています。
- 令和27（2045）年の人口は、14,208人まで減少する見込みで、減少率は約8.2%となります。

鉄北東部エリア	R5	R6	R12	R17	R18	R22	R27
0-14歳（年少人口）	11%	10%	10%	10%	9%	9%	9%
15-64歳（生産年齢人口）	60%	60%	59%	58%	58%	57%	55%
65歳（老年人口）	29%	30%	31%	32%	32%	34%	36%

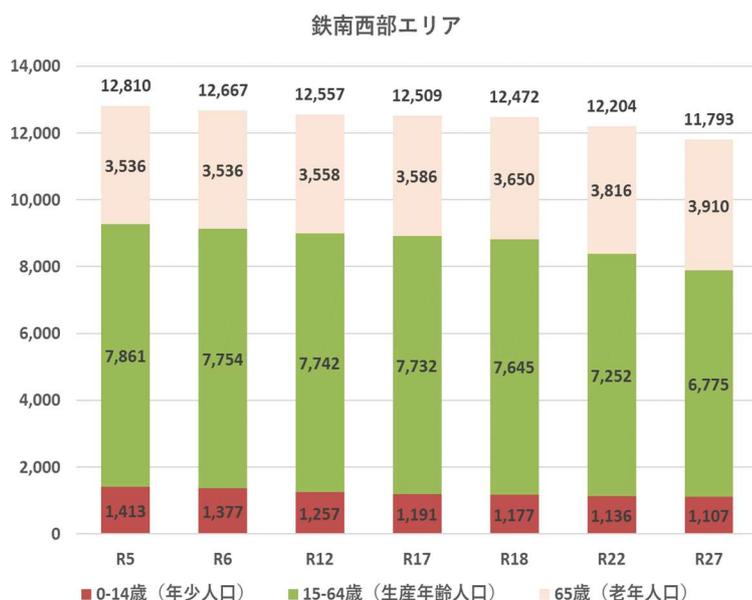
### ③ 鉄北中部エリア



- 令和6（2024）年10月の鉄北中部の人口は、18,847人で市の総人口の19.3%を占めています。
- 令和27（2045）年の人口は、20,189人まで増加する見込みで、増加率は約7.1%となります。

鉄北中部エリア	R5	R6	R12	R17	R18	R22	R27
0-14歳（年少人口）	13%	13%	12%	11%	10%	10%	10%
15-64歳（生産年齢人口）	65%	65%	66%	65%	65%	63%	61%
65歳（老年人口）	21%	22%	23%	24%	25%	27%	29%

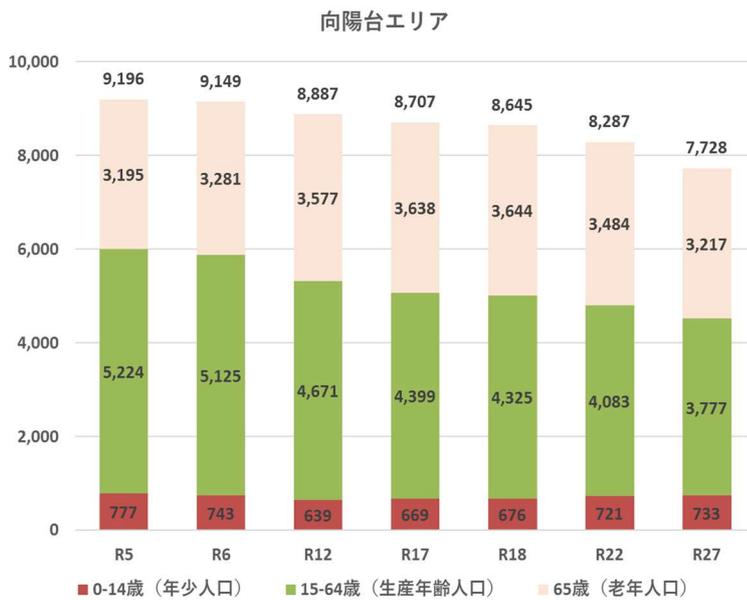
### ④ 鉄南西部エリア



- 令和6（2024）年10月の鉄南西部エリアの人口は、12,667人で市の総人口の13.0%を占めています。
- 令和27（2045）年の人口は、11,793人まで減少する見込みで、減少率は約6.9%となります。

鉄南西部エリア	R5	R6	R12	R17	R18	R22	R27
0-14歳（年少人口）	11%	11%	10%	10%	9%	9%	9%
15-64歳（生産年齢人口）	61%	61%	62%	62%	61%	59%	57%
65歳（老年人口）	28%	28%	28%	29%	29%	31%	33%

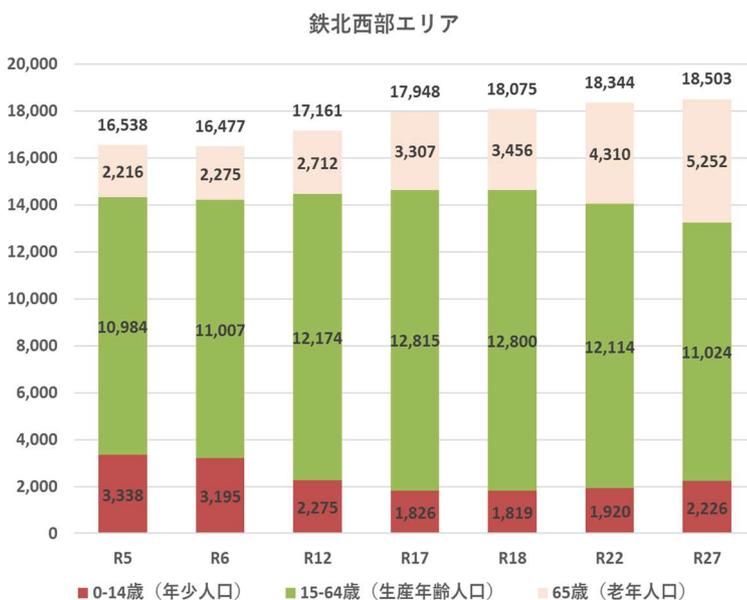
## ⑤ 向陽台エリア



- 令和6（2024）年10月の向陽台エリアの人口は、9,149人で市の総人口の9.4%を占めています。
- 令和27（2045）年の人口は、7,728人まで減少する見込みで、減少率は約15.5%となります。

向陽台エリア	R5	R6	R12	R17	R18	R22	R27
0-14歳（年少人口）	8%	8%	7%	8%	8%	9%	9%
15-64歳（生産年齢人口）	57%	56%	53%	51%	50%	49%	49%
65歳（老年人口）	35%	36%	40%	42%	42%	42%	42%

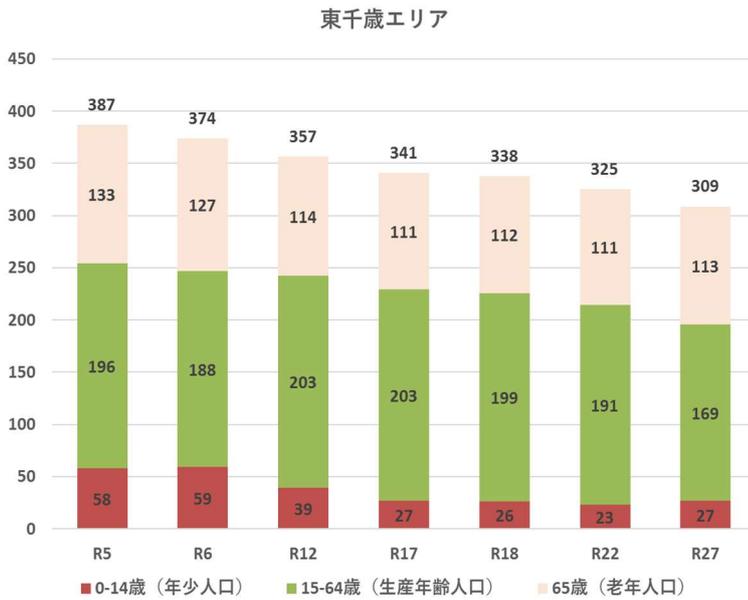
## ⑥ 鉄北西部エリア



- 令和6（2024）年10月の鉄北西部エリアの人口は、16,477人で市の総人口の16.9%を占めています。
- 令和27（2045）年の人口は、18,503人まで増加する見込みで、増加率は約12.3%となります。

鉄北西部エリア	R5	R6	R12	R17	R18	R22	R27
0-14歳（年少人口）	20%	19%	13%	10%	10%	10%	12%
15-64歳（生産年齢人口）	66%	67%	71%	71%	71%	66%	60%
65歳（老年人口）	13%	14%	16%	18%	19%	23%	28%

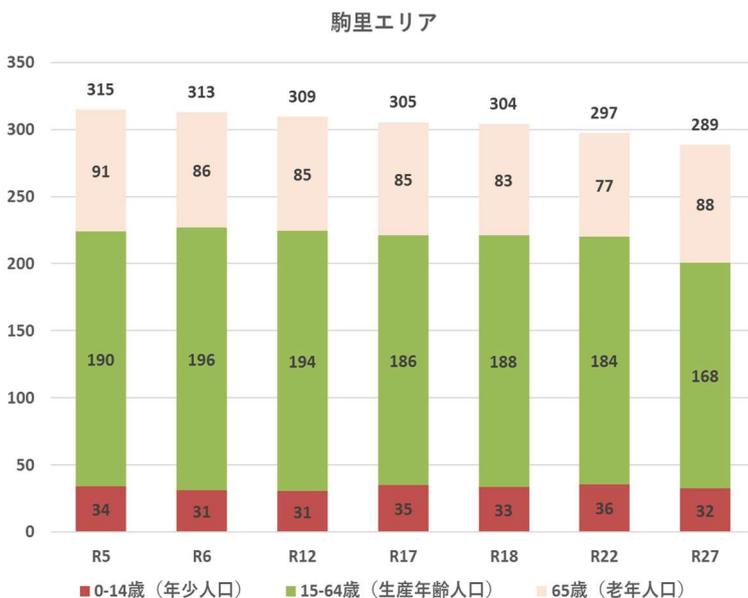
## ⑦ 東千歳エリア



- 令和6（2024）年10月の東千歳エリアの人口は、374人で市の総人口の0.4%を占めています。
- 令和27（2045）年の人口は、309人まで減少する見込みで、減少率は約17.4%となります。

東千歳エリア	R5	R6	R12	R17	R18	R22	R27
0-14歳（年少人口）	15%	16%	11%	8%	8%	7%	9%
15-64歳（生産年齢人口）	51%	50%	57%	59%	59%	59%	55%
65歳（老年人口）	34%	34%	32%	33%	33%	34%	37%

## ⑧ 駒里エリア



- 令和6（2024）年10月の駒里エリアの人口は、313人で市の総人口の0.3%を占めています。
- 令和27（2045）年の人口は、289人まで減少する見込みで、減少率は約7.8%となります。

駒里エリア	R5	R6	R12	R17	R18	R22	R27
0-14歳（年少人口）	11%	10%	10%	11%	11%	12%	11%
15-64歳（生産年齢人口）	60%	63%	63%	61%	62%	62%	58%
65歳（老年人口）	29%	27%	27%	28%	27%	26%	30%

## 【対象地域】

- ① 鉄南中部エリア・・・栄町、千代田町、幸町、春日町、錦町、緑町、大和、桂木、北栄、新富、末広、北斗1丁目・2丁目、新星、真町、本町、東雲町、朝日町、清水町、平和、真々地、支笏湖温泉ほか
- ② 鉄北東部エリア・・・青葉、住吉、東郊、日の出、青葉丘、日の出丘、豊里、梅ヶ丘、弥生、寿、旭ヶ丘、流通ほか
- ③ 鉄北中部エリア・・・富丘、幸福、清流、根志越、稲穂、花園、高台、あずさ、泉郷、中央、祝梅
- ④ 鉄南西部エリア・・・北斗3丁目～6丁目、自由ヶ丘、桜木、信濃、富士、北信濃、上長都
- ⑤ 向陽台エリア・・・若草、白樺、里美、文京、柏陽、福住、泉沢
- ⑥ 鉄北西部エリア・・・北光、長都、釜加、都、北陽、長都駅前、勇舞、みどり台北、みどり台南
- ⑦ 東千歳エリア・・・東丘、新川、幌加、協和
- ⑧ 駒里エリア・・・駒里、美々

千歳市人口ビジョン

【担当】千歳市企画部主幹（総合計画等担当）

〒066-8686 北海道千歳市東雲町2丁目34番地

電話 0123-24-0521

FAX 0123-22-8852

作成：令和7年2月